

「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けた基本的な考え方（中間のまとめ）に対する意見募集結果について

中間のまとめに対する意見募集結果概要

(1) 実施方法

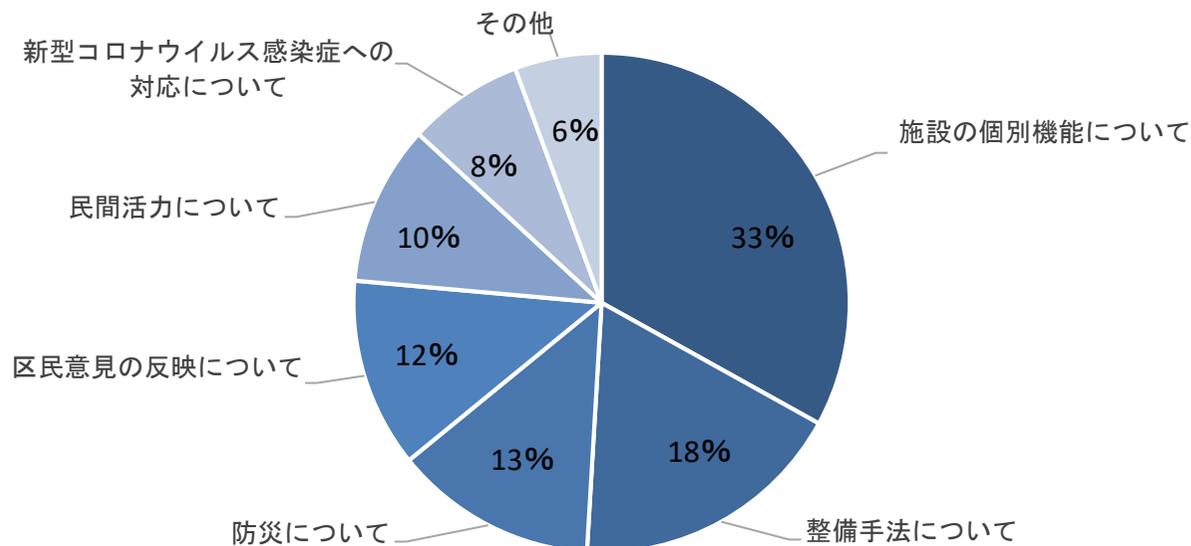
○募集期間：令和2年6月12日(金)から令和2年7月31日(金)まで

○周知方法：めぐろ区報（6/25号）、目黒区ホームページ、総合庁舎1階区政情報コーナー、4階区有施設プロジェクト課、地区サービス事務所（東部地区除く）、住区センター、区立図書館、目黒駅行政サービス窓口、区民センター内施設にて閲覧及び配布を行った。

(2) 提出者数

提出者	FAX	メール	その他	計
個人・団体	8	30	11	49
議会	0	2	0	2
計	8	32	11	51

(3) 提出意見の内容別割合



(このページは白紙です)

No	意見	今後の検討の方向
1	<p>学校と一体的に建て替える事に賛成だ。尚、小学校にプラスして保育園を新たに新設し、青少年プラザも併設し、兄弟がいないまたは異性の兄弟がいない児童らが幅広い年齢層と触れ合える機会を設け、早い段階から子供に優しい社会を作っていけるようにするべきだと思う。</p> <p>また、区民センターには役所並みの機能を備えて欲しい。これは絶対条件だ。共働きの夫婦からすると自宅から目黒駅に向かう間に、役所と保育園と駐輪場があれば大変暮らしやすい。とにかく目黒駅寄りの住人は目黒の本庁に行くのが大変だ。</p> <p>美術館については民間活力で、カフェを併設したり現代アートを取り入れる等区の財政が潤うようどんどん進めていくべきだ。</p>	<p>新たな区民センターは、乳幼児から青少年、高齢者まで、誰でも利用でき、いつ訪れても居場所があるような空間づくりを進めていきたいと考えています。実現に当たっては、民間活力も適切に活用していきます。</p>
2	<p>区民センターの今後あるべき姿としては、区民の誰もが利用しやすい、また、利用したくなるような施設であってほしいものです。その為には、施設の一部の改修ではなく、費用がたとえかさんだとしても大規模な施設全体を見直した建て替えを推進したいと思えます。それには、下目黒小学校も築55年が。また、既存の区民センターの施設も築45年が経過しています。この際に一体化して再開発することが望ましいと考えます。</p> <p>では、どのような施設の建設が望ましいのでしょうか。現在の施設内にある美術館は他の区にはあまり例がない施設であります。区民の文化への関心、教育の面からも必要性の高いものであります。</p> <p>では、いったいどのような施設の建設が望ましいのでしょうか。施設が利用しやすいものでなければなりません。そして、わかりやすいものでもあってほしいものでもあります。建物の構造に関しては、高さ制限が40メートル以内として、大きな建物内に各階のフロアの面積を大きく確保します。各フロアの1階には、児童館や保育施設。2～3階には美術館。4～5階には社会教育館や消費生活センターなどの勤労福祉に関するものを。5階に図書館。6～7階に千二百人を収容する大ホールとしたものが望ましいと思えます。</p> <p>これは、各フロアごとに部署が別れており他階への移動といった不要な動作を無くします。</p> <p>スポーツ施設の建物に関しましては、1階は、スポーツ施設としてトレーニングルームとして、2～3階に50メートル室内開放型のプール。4～5階に大型体育館が望ましいと思えます。</p> <p>公園の施設に関しましては、目黒通りに近い下目黒小学校のあたりに、中央に広域の芝生のある広場を設けることで災害時における避難場所といたします。公園の周辺には、緑とベンチを多く設けることで憩いのある場所にいたします。</p> <p>同センターの横を流れる目黒川に関しては、渋谷川の渋谷ストリームに設けられたような水辺を感じられる施設とすることが望ましいと思えます。</p> <p>トイレに関しては、多様性のある社会的概念から多目的である誰でもトイレを各トイレ横に2ヶ所は必要であると思えます。</p> <p>下目黒小学校の新校舎に関しては、現在の区民センターのある場所が静かな住宅街であり望ましい場所であると思えます。建設される校舎に関しては、高層階のある建物として、敷地の有効的な活用が望ましいと思えます。</p> <p>また、新たな新施設への道路に関しては、山手通り、目黒通りともにアクセスしやすい道路となるのが理想的です。さらに、施設の周辺の道路に関しては、両側に歩道のある道路として、安全性のあるものとして利用者への安心感のあるものであってほしいです。</p> <p>最後に、目黒区民センター建設新プロジェクトに関しては、すべての施設における箇所で余裕のあるものであってほしいと思えます。この施設によって目黒区民の意識の向上。区民が目黒区に住んでいて本当に良かったと言えるような充実感が伺えることが大切です。施設の建設費はかなりのかかりますが、先代はこの施設を造ってくれて良かったと思っただけのよう、次世代への願いを込めて区民一丸となって乗り越えていければ良いと思えます。</p>	<p>新たな区民センターを誰でも利用しやすい施設とするには、空間はもちろんのこと、施設配置や動線にも留意していきます。</p> <p>区民センターと下目黒小学校の一体整備においては、公園や目黒川といった自然を活かした空間づくりのほか、防災の観点も不可欠であると考えています。交通アクセスについては、区民センター周辺地域の道路状況等への配慮が必要である点を踏まえながら検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
3	<p>第2章「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けて(2)新たな区民センター整備に向けた考え方(P30)について、該当資料前述の検討素材への意見(P24-29)を踏まえた項目追加して議論を進めていただくようお願いいたします。</p> <p><追加項目></p> <p>(1)整備手法:「利便性の高い施設統合」(P27整備についての意見を反映)</p> <p>(3)導入する機能:「利用者層を想定した」施設機能の融合、集約化、効率的な空間利用 (P26コンセプトについての意見を反映)</p> <p>(4)都市計画上の課題への対応: 防災拠点としての役割と目黒川水害時の対応 (P27防災についての意見を反映)</p> <p>課題として挙げられている次の特性にはメリット、デメリットがあります。</p> <p>地理的な特性:「駅から遠い」⇔「目黒区内では広い土地」</p> <p>区内の公共施設:「分散状態(中目黒駅及び山手通り沿い)⇔「効率的な集約化」</p> <p>防災機能(川が近い):「震災時の防災拠点」⇔「水害」</p> <p>解決方法の一つとして、利用者層を特定したコンセプトづくりをしていくことだと考えます。</p> <p>例えば、利用者層を中高生から大学卒業したあと起業していく10-30歳を中心とすると地理的な特性も大きな課題とならず、防災時のサポート役としても期待されます。水害時にも他の年齢層と比較して避難が容易であり、IT技術利用にたけた世代なら区民センターへの立ち入り制限があるときでもリモートでの代替作業が可能と推定されます。</p> <p>他方、乳幼児から小学生、あるいはシニア層が常時利用する施設としては、地理的な特性や防災の観点から区民センター敷地には大きな課題があり、対策コストを考慮すると周辺施設に分散化が望まれます。(美術館や公園は全ての世代が利用するものであり、整備対象から外す必要はありません。また、例えば起業する20-30代がアドバイザーとしてシニア層を施設に招待する際の施設、あるいは共働き世代が子連れで勤務・会議をする際の保育施設なども整備対象からはずす必要はありません。なぜなら、災害時にはシニア層や子供をサポートする20-30代がそばに存在するためです。)</p> <p>このようなコンセプト、仕組みづくりができれば、P40<目的に応じた多様な利用が可能に>が実現できると思います。そして、近隣区と比較して大きな法人数がすくない目黒区にとって、「個人事業家数・所得が増加する」効果を期待するというメリットはおおきいと考えられます。</p>	<p>区では、新たな区民センターのコンセプトにもあるように、だれでも、いつでも、どんな利用もできるような空間づくりを目指しています。今回、その具体化となる基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。施設の集約化や防災時の施設機能など、施設に対する考えは様々であり、今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していく中で具体化を図っていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
4	<p>さきに「検討素材」への意見として掲出をいただいた者です(「No.47(p17)」)。基本的に現地改築より移転改築のほうがよいのではとの考えに変わりはありませんが、それは関係者のかたの今後のご努力に期待します。</p> <p>なおひとつ、「まとめ」第2章の2の(4)のイにある『。。。将来を見据えた目黒駅周辺のまちづくりと連携。。。』(p54)に意を強くし、以下交通アクセスの問題について補足的に意見を述べます。</p> <p>JR目黒駅は品川区にあるとは言え、西口利用者のほとんどが目黒区民です。そこにまともなバスターミナルが整備されていないことは残念なことです。これを機会に、都及び品川区の理解を求めJR東・目黒区・品川区の共同事業で線路上に蓋をし、東口に負けない駅前広場をつくっていただきたい。そこに、バスターミナルだけでなく、首都直下型大震災など大災害時に発生する大量の“帰宅困難者”の、一時避難所の役割を持たせることも可能です。例の「東日本大震災」のおりあふれていたのです。</p> <p>目黒駅と中目黒、つまり区役所方向を結ぶバス路線が「野沢龍雲寺循環」ひとつしかないのも驚くべきことです。本数も乗客も比較的少なく、私の眼には東急がいつ撤退を考えてもおかしくないな感があります。さきの私の提案のなかにある「コミュニティバス」はそれを意識したものです。あの案に中目黒駅周辺を加え、三田通り・駒沢通り・山手通り・目黒通りの内側を左回り(反時計回り)の一方通行とする。停留所の数を少なくすることができ、また交通渋滞に対応することもできます。愛称は『さんまバス』、運行を東急などに委託することで「民活」ともなります。</p> <p>以上、趣旨ご理解のうえ今後の検討にご配慮ください。</p>	<p>交通アクセスについては、区民センター周辺地域の道路状況等への配慮が必要である点を踏まえながら検討を進めていきます。</p> <p>なお、地域交通については、「地域交通支援の手引き」に基づき、各地域の移動に関する課題解決に向けた地域住民の取組に対して積極的に支援していくこととしています。</p>
5	<p>P.22パターン③に賛同 目黒在住74年になります。</p> <p>区民センターは最大限に利用させて頂いて居ます。特に美術館は催しが変わる度に欠かさず観覧させて頂き芸術の魅力を堪能して居ます。社会教育館ではサークル活動にも参加して居ます。私にとって楽しい場所ですが建物の老朽化は感じます。心配なのは防災について、例えば目黒川の氾濫です。</p> <p>桜の季節は賑わっていますが、雨降りの夜の暗い目黒川を見ると、溢れそうで心配です。もしそのような事態になれば、美術館の収蔵作品に被害が及び遺産の損失は責任重大であります。その為にもまず防災の対策を第一に備えて頂きたいです。</p> <p>子供の頃碑文谷の住いは床上浸水し度々恐ろしい体験を致しました。しかし立会川を暗渠にしてからはその不安は無くなり心地よい散歩道になり大事にして居ます。以上思いつくままに。</p>	<p>区民センターの敷地は、目黒川沿いという恵まれた立地である一方、水害ハザードマップでは水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
6	<p>標記の「中間のまとめ」において予定されているホール関連に絞って意見・要望を記載する。</p> <p>目黒区には1200席の大ホールと200席の小ホールがあるが、その中間規模のホールは現区民センターホールだけであり、現区民センターホールよりも使い勝手の良いホールになるならば、今後区民主体で利用する需要は増えるものと思われる。</p> <p>新しいホール建設についての意見・要望を以下に記載する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目黒区文化祭は目黒区文化団体連合所属の各団体の規模や集客力において、めぐろパーシモンホール・大ホールでは大きすぎ、小ホールでは小さすぎるなかで、現区民センターホールの規模(約417名)での開催がふさわしい。 2. 目黒区商工まつりの一環として区内の各種学校や諸団体の演奏、演技の発表の場として今後も必要である。 3. 区内の演劇、舞踊、器楽、合唱などの諸団体は現在でも増加しつつあり、中規模ホールの需要は今後も増加すると思われる。 <p>また山手線目黒駅が利用できる立地条件から区外利用も見込まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 上記のような観点からホールの規模としては現状の400席程度を希望する。 <p>車椅子スペース及び入退場時の導線の確保を含めて障がい者の利用にも配慮した設計を希望する。同時に今後の区民の高齢化も意識した設計を希望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ホールの性格としては舞台利用の催事を中心とした固定椅子にするべきで、中間報告にあるような可動椅子方式で平土間にも利用できる案には反対する。スポーツ等の利用ならば新体育館を建設してその規模、設備等をより拡充することが優先である。 <p>またホールを仕切って使用することはそのための装置など複雑になりすぎることと仕切ったところで音漏れや振動などが残り使用に適さない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. バックヤードの充実も重要である。楽屋、備品収納場所、舞台袖等を充実させ、特に楽屋は舞台面と同一平面に設定する。 7. 多目的ホールでもよいが、振動や音漏れなどが生じないような最低限の音響設計はするべきある。 8. ホールの運営管理は美術館も含めて(公財)目黒区芸術文化振興財団(以下、芸文財団)が所管するのがふさわしい。ホールと美術館が連携した催事がより多く開催できる。 <p>芸文財団は目黒区の芸術文化振興プランにおいても目黒区の芸術文化の推進役とされ中心的存在として位置づけられている。</p> <p>また、めぐろパーシモンホール等の建設時に得られた教訓を生かすと共に、これまで約20年間同ホール等を運営してきた経験の蓄積を活用すべきである。</p>	<p>現在のホールの規模は、区民の利用のしやすさという観点でのニーズは大きいものと認識しています。限られた敷地の中で、どのように機能を継承し他の施設機能との効果的な融合化を図れるか、また民間活力の活用といった点にも留意しながら検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
7	<p>「区有施設見直し計画」の一環として今回は「区民センター見直し検討」がなされています。(中間のまとめ)の内容で全体の区有施設も含め、以下の問題点を考えましたので記します。</p> <p>A. 現状の建物構成(P4のエ、P5ア) 棟別で複数の施設があり今後の開発に向け各種行事も含め、開発区域内での必要性の是非を検討し、周辺の区有施設も鑑みて、組織改革をし、無駄を省く必要がある。</p> <p>B. 現状の法的な課題(P8の(3)、P48～)見直しの問題として最も重要な課題である。 1) 前面道路幅員の明記がないが、9m未満であり開発許可基準は9m以上とされている。 開発許可制度に該当するので、この法律に合致させる必要がある。具体的には開発区域内は拡幅可能だが“山手通り”への接続を検討すると周辺の共同開発が手法の一つである。 2) 都市公園法(p51～) 全体敷地面積の約半分を占める公園の扱いは重要な役割を担う。例えば屋上庭園、各層に亘る方式等公園法の基準を吟味し十分な検討をする必要がある。 3) 既存不適格の対応(P48) 都市計画法、建築基準法、等に照らし合わせて専門家チームで検討課題を整理する。</p> <p>C. 財政負担軽減対策 開発区域内施設は大半が50年以上前に建設され老朽化も激しく総合的な建て替えが望ましいと考える。この前提から財政面では区独自では不可能に近いので民間資金活用の選択肢で早期に外部有識者等の専門家チームを立上げ検討する必要がある。</p> <p>D. 総合判断(P54) 1) 施設整備の方向性: 区の方針に賛成です。但し、小学校は閉鎖できないので要注意! 2) 民間活力の活用: 区の方針に賛成です。専門性、財政面からこの方式しかありません! 3) 集約施設: 本庁舎、他の区有施設の併設等将来を見据えた是非も含め検討の必要あり!</p> <p>E. 今後の進め方 工程表(案)を作成し、これに沿った項目を明記する。住民或いは利用者等からの意見はある程度必要と思うが最も重要なのは、行政が10年、20年後の区有施設の在りかたについて判りやすい方向性を示し、この提案に対して住民からの意見だと有効である。 意見の中で重要性のある場合は意見者とのヒアリングも実施して欲しい。 又、今回の開発計画は最短でも10年。15年、20年が当たり前の難題が山積している所以柔軟性のある進め方が重要である。社会環境の急変の中、オンライン、テレワーク等の働き方改革の検討も必要と考え、先ずはプロポーザル方式募集に対する条件設定を作成する必要がある。(特に項目B,C解決方法)“無駄のない”効率的な進め方を期待いたします。</p>	<p>コンセプト実現に当たって、公園は大きな役割を担い、それをどのように実現するかは大変重要な要素だと考えています。また、開発手法により、道路幅員の検討も大きな課題となる点も認識しています。既存不適格の点もあわせ、都市計画上の制約をどのように解決していくか、地域の周辺街づくり等と合わせ、総合的に検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
8	<p>区民センター基本構想策定に向けた議論検討は一時凍結すべきである。</p> <p>理由 新型コロナウイルスの感染拡大により施設の前提条件が大きく変わっている。例えば、区民センターホールは固定席417席と車椅子スペース4台の中型多目的ホールの位置付けであるが、現在208名の定員で運用されている。これでは新たな施設のイメージの見当が皆目つかない。新型コロナ感染予防問題がここまで大きく長期化する見通しとなっている現状で、現在の運用は暫定措置との認識で当初の位置付けで議論検討しても意味はなく無駄となる。 政府の専門家会議が提言する「新しい生活様式」を踏まえ、今後の施設のあり方や設置条件を検討することが先決であり、それまで基本構想策定に向けた議論検討は凍結すべきである。 それともオープンエアの野外劇場や20人学級を前提とした校舎建設といったものの提案を求めているのですか。</p> <p>○意見募集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い見直し作業は凍結すべきだと既に意見提出したが、業者向けのサウンディング調査では、具体的に②新型コロナウイルスが本事業に及ぼす影響や留意事項等、として意見を求めている。業者には具体的に新型コロナウイルスの感染に伴う影響について聞いて区民には聞かないのか。 ・意見募集は何を求めているのか。「検討素材」と変わった部分は、「新たな区民センター整備に向けた考え方」の部分だけだと説明があったが、大部分が検討素材と同じである。業者向けのサウンディング調査では、親切に意見聴取事項を提示しており、区民向けのパブコメのような抽象的な意見募集とは全く違っている。 ・一方で、「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)(概要版)には、(4)社会状況の変化 ア 国・都をめぐる社会潮流・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、リニア中央新幹線開通による都市間競争の活発化など、都市の競争力の変化も見込まれています。の記載があるが、本文にはない。 ・検討素材の際の区民意見と回答が添付されているが、区の特論を展開するだけで区民の意見を無視したり、的外れな回答があったりも見受けられる。区民意見を出させるだけの形式的なパブリックコメントではなく計画に反映できるパブリックコメントを求めます。 <p>○下目黒小学校の改築については、児童、教職員、地域の意見を第一に尊重し決定すること。</p> <p>○区民センターの利用のされ方の変化として貸室への特化を挙げているが、区民はもともとそのような認識である。施設単位や機能にこだわっていたのは区だけではないのか。貸室への特化を新たな施設の建設の言い訳とすることなく即時改善すること。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による影響については、区民センターにおいても十分留意していく必要があると認識しており、基本的な考え方にもまとめましたように、新たな社会を見据え、変化に対応できる空間の実現に向けた検討を進めていきます。</p> <p>本事業においては、民間事業者の参画が不可欠であることから、サウンディング調査ではポイントを絞った対話を実施しました。一方、住民参加では、ワークショップやアンケート、アイデア募集など多様な取組を通し、今後の基本構想策定に向け、実際にどのような空間、使い方を目指すかという点に重きを置いたお考えをお聴きしています。</p> <p>下目黒小学校との一体整備についても、これまでどおり教育委員会、学校と連携し、引き続き関係者の声を聴きながら進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
9	<p>少子高齢化が進む社会環境を踏まえて 現在、一部の大学などでは社会人大学などが活況を呈していますが目黒区に住む人々や目黒区と関りのある人々が様々なテーマを学習したり、体験することができる「(仮称)目黒コミュニカレッジ」の機能設置を提案したいと思います。</p> <p>米国などでは各地域にコミュニカレッジが配され、様々なテーマの授業が、「年代」、「国籍」、「性別」を超えて行われています。</p> <p>また、それらのコミュニカレッジでは母国語を英語としない外国人向けにかなりきめ細やかな能力に合わせた英語会話の講習なども行われており、米国内での外国人の活動を支援しています。</p> <p>他方、日本では昨今、いくつかの大学で急増するシニア層や主婦向けに社会人大学が開講しており、その内容も年々充実してきているように思います。</p> <p>一部の大学ではアクセスの便利な所にサテライトキャンパスと称する教室を設け多くの多彩な講座を提供している大学もありますが、多くの大学は、大学の学期、時間帯を避けることに配慮せざるを得ず、主婦やシニア層にとっては必ずしも快適な環境とはいえません。</p> <p>目黒区民センター周辺は自然にも恵まれ、またアクセスも良く、ここに目黒区内に在住、あるいはかかわりを持つ社会人、主婦、シニア層、外国人にとって魅力的なカリキュラムを持つコミュニカレッジ機能が設置され、その付帯施設としての食堂、図書館、体育施設なども併設されることになれば、大変魅力的な「目黒区民センター」になるのではないかと思います。</p>	<p>新たな区民センターでは、そのコンセプトを「未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」としており、つながるための機能の一つとして「まなぶ」をあげています。年代を問わず多様な世代がまなびあえる空間をどのように実現できるか、またそれを他の機能とどのように融合化を図っていくか、引き続き検討していきます。</p>
10	<p>当団体も、かつてより区民センターを利用させて頂き感謝申し上げます。</p> <p>ただ現在の施設では不便・不安を感じる点がありますので、それを配慮した新しい施設の建設をお願い致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民センターホール 客席 500席 舞台 現在の3倍のスペース 控室 舞台に隣接しバリアフリー 階段 手摺を付ける 館内 エレベーター ・社会教育会館 美術室の増設と倉庫の拡大 広いロッカールームの設置 安全に使える広い給湯室の設置 レクレーションホールの扉は高齢者には重いので軽量化、窓などの自動開閉化 研修室は小さなものを多く作るより、多目的利用出来る大部屋が良い ・プール 夏季限定の屋外プールは土地利用効率を考慮し止めて、屋内に集約 飛び込み用も止めて、子供も利用出来る深さのものにする 	<p>新たな区民センターにおいては、より多くの方が、多様な使い方ができる空間を目指していきます。エレベーターや手すりなどのバリアフリーはもちろん、多目的に活用出来るスペースや年間を通して利用できる空間づくりという観点を持ちながら検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
11	<p>1. 地域住民と利用者の意見を聞く場、協議会を設けて欲しい。 2. 男女平等・共同参画センターを組み入れることは賛成！！ 資料(ジェンダー関連の専門書等)はコーナーを別に設ける。 3. 美術館は現状のままで存続すること。 4. 公園の樹木は貴重なので保存する。 5. 下目黒小は区民センターの中に合築しない。 独立した建物で建て替える。 6. ホールは中小企業センターに位置付けず区民センターホールとして中ホール(400席位)が必要。 管理運営は目黒区芸術文化振興財団が望ましい。</p>	<p>新たな区民センターの空間づくりは、多様な施設の利用者の声を聴きながら、限られた敷地の中でどのように実現していくか見定めていく必要があります。そのためには、現状に留意しながらも、将来の区民センター全体を捉えながら、効果的な運営や施設間での機能の融合を図っていくことが不可欠だと考えています。</p>
12	<p>目黒区美術館は、目黒区民センターが建設されたのち、昭和51年、目黒区基本構想の中で総合的な文化施設の一つとして検討が開始されました。最終的に適地として区民センター隣接地を新たに取得した後に整備されたため、区民センター諸施設と異なり、実質的に単独の施設として建設されたものです。このような経緯から、今回の基本構想策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)にもあるように、現状では、大規模複合施設である区民センターや田道ふれあい館に近接し、都市公園や目黒川ともつながりのある恵まれた環境にありながら、各施設との多様な連携を図ることが必ずしも容易なことではありませんでした。今後は、基本構想策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)にも示されたように、周辺施設の多様な機能(ホールや図書館などに内在する生涯学習機能)との連携や施設間の協力を促進し、相乗効果が発揮できるように、工夫を凝らす必要があると考えます。</p> <p>さらに、芸術・文化活動のみならず、学習、交流などの場が、美術館を核として展開されることで、今まで以上に美術館の持つ高いポテンシャルを生かしていくことができるのではないかと考えております。是非とも、新たな目黒区の芸術・文化のシンボルとなるよう計画を進めていただければと存じます。</p> <p>なお、美術館は開館から30年以上が経過し、空調設備をはじめとして施設が老朽化しております。美術館には目黒区民共通の財産ともいべき2,400点に上る作品が保管収蔵されており、長期にわたって適切に管理しなければなりません。新たな施設が整備される際には、空調設備等も最新の技術を取り入れ、収蔵品の安定した管理及び保管機能の向上にも資するよう、よろしく願いいたします。</p> <p>また、これまで目黒区は、村野藤吾設計の総合庁舎をはじめとして、建築物の芸術・文化的価値の高さを情報発信してまいりました。新たな区民センターについても、今日までの地域における歴史的価値や醸成されてきた文化的価値を維持しながら、大都市東京の目黒を象徴する、芸術性の高いデザインの建物として評価され、同時に多様な発信力を持つ施設となることを期待いたします。</p> <p>なお、美術館に必要な機能と、施設全体での機能の融合については、今後の検討の中で具体化していくと思われませんが、美術館事業としての展覧会開催や、教育普及、区民ギャラリー等の根幹事業と密接に関係するため具体化に向けた各段階で連絡調整等、密に進めていただければ幸いです。</p>	<p>美術館については、作品展示のほか、ワークショップやアウトリーチ、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々に親しまれてきており、また新たな区民センターの未来像(コンセプト)実現においても、創作し、発表でき、区民がより身近に芸術文化に触れる空間は必要だと認識しています。今後も、ご意見にある他の機能との連携による相乗効果を最大限発揮できるよう検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
13	<p>「まとめ」に向けての冊子を拝読しての感想は、以下の通りです。(前回も提出)</p> <p>1 区民の声をよく取り上げ、前向きな「まとめ」で嬉しいです。</p> <p>○総合的に見て、複合施設全体で相乗効果を高めるには、「改築(建て替え)」の方向ですと解釈し、賛成します。直近改修した大きな区営施設では、開館前に雨漏りがするとか不具合が多々出てきたように聞いております。老朽化したものを改修するとどこかに不具合が出るのではないのでしょうか。安いものが逆に高くないように専門家の充分なご意見を尊重してください。</p> <p>○区民センターは、スポーツ・芸術・舞台・会議・公園等々多岐にわたっての利用で、各利用者の思いも様々です。ご提案通り、各分野からの選出によって出た方々でのプロジェクトチームを結成し、(各メンバーは、下部に下し)多くの利用者の意見を吸い上げていただけるとよいと思います。(結成されたチームの方々は、区外のモデルとなる施設の見学会も行う)</p> <p>○田道ふれあい館は、高齢者の方々にとっては、素晴らしい施設だと思いますが、区民センターとの連携をよりよくして、双方ともに交流はできるとよいと思います。同年齢でも区民センターの方が若く、田道の方が老人というイメージができてしまうのは残念です。</p> <p>○交通の便は、目黒といえども不便に感じている方は、多いと思いますが、田道のお風呂の送迎バスがあるように区営のバス利用を考えることはできませんか？(現状の時に試行してみてください)</p> <p>○緑と川のある施設とは、心豊かになってよいですね。コロナ感染予防対策として、宣言が出た頃、毎日、林試の森公園のウォーキングをしました。水があるとホッとします。</p> <p>あの公園には、池がありますが、池に住む生き物、(虫や鳥等)に対し、子どもたちに小さいうちから自然に親しませ、自然を大切に作る習慣を身をもって体験させたいです。現世の危機(地球温暖化等々)が生じたのも、自然破壊に起因しているところが多々あると思います。自然豊かな公園は、大賛成です。</p> <p>そのためには、公園下(地下)の有効利用をよろしく願います。(法規に触れない程度のぎりぎりの利用を)</p> <p>○夏の屋外プールの利用率はすごいものです。しかし、7月から2か月足らずでは、もったいない。屋外は、レジャープールと明確にし、前回提案したとおり、地下に可動式50m公認プールと幼児プール(新提案)をお願いしたいです。公認プールだと大きな大会でも貸してほしいとの要望が多々あるだろうと思います。(収益)</p> <p>○テニスコートはサポートセンターに。とのご意見もありましたが、美術館に郷土資料館をもってきたら如何なりでしょうか？平和の鐘も近辺に設置し、空襲の写真を常設したり、被爆二世樹木を眺め、空襲を語り継ぐ意思を示したいものです。また、水車を置き、そこから続いて緑と水のある公園があると夢を持てます。冬のレジャープールを何かに利用できるとよりよいのですが・・・</p>	<p>基本構想(素案)の作成に向け、より多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、より多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p> <p>なお、田道ふれあい館は東京都から清掃事業に係る無償貸付を受けている用地で、現時点では本事業の対象とすることは考えていませんが、田道ふれあい広場とのつながりなど、可能な範囲で検討していきます。</p> <p>また、既存の屋外プールやテニスコートは公園面積の約半分を活用して設置していますが、新たな区民センターにおいては公園の役割も非常に重要だと考えており、年間を通して多様な利用ができる空間づくりに留意して検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
14	<p>意見1 8ページ 第1章 区民センターをめぐる状況 3 区民センターの現状から見える課題の(1)建物・設備面の課題において耐震性に問題がある、大規模改修が行われていない、バリアフリーへの対応が不十分、浸水対策の対応がなされていないとの記述があるがこれは行政の怠慢の結果であり、利用者の安全を考えればすでに対策されていなければならない問題である。あえて対策しなかったのは区民センターの全面改築が前提にあったのではないか。</p> <p>意見2 8ページ 第1章 区民センターをめぐる状況 3 区民センターの現状から見える課題の(2)施設運営面の課題において区民センター施設間の「効率的」な事業運営や施設の「効率的」な活用や複合施設としての「効果」を最大限図る(カギかっちは筆者)など効率化が課題とされているが区民センター建設のコンセプトは「多種多様な用途・機能を有する区内有数の大規模複合施設」(7ページより引用)であったはずであり効率化に反するものであった。そのことが何の検証もなく否定されているのは施設の一体化への誘導である。コロナ禍で集中から分散が求められている今、効率優先ではなく各機能を生かしたうえでの協調が求められているのではないか。</p> <p>意見3 10ページ 第1章 区民センターをめぐる状況 5 社会状況の変化 (1)国・都をめぐる社会潮流においてコロナ問題が全く触れられていない。今年3月に顕在化した新型コロナウイルス感染症による社会的影響は人命だけでなく人々の行動様式や労働環境、学習環境などに多面的な影響を与えた。区民センターの新たな構想を検討するにあたって新型コロナウイルスの影響について考察しないことは考えられない。今回のパブリックコメントを実施するにあたって改めて検討しなおすべきであったし今後の計画を延期してでもこの問題を正面からとらえて新型コロナウイルスに行政が新たな施設建設においてどのように対応すべきかのモデルケースとすべきである。(2)の区を取り巻く状況変化についても同様である。</p> <p>意見4 11ページ 第1章 区民センターをめぐる状況 6 区民センター見直しの方向性 (1)新たな区民センター整備に向けた大きな視点において「区有施設見直し計画」をもとに「民間活力を積極的かつ多様に活用し、施設整備及びその後の運営を効率的・効果的に進めていく事が重要となります。」とあり民間活力の活用と施設運営の民営化が既定路線であるかのように描かれている。区有施設見直しにおいて民活路線を敷いた「目黒区 区有施設見直し有識者会議」の議論経過を見ると委員長の根本裕二氏が民活路線を誘導している。根本氏が自ら作成し第3回の有識者会議で配布した『『朽ちるインフラ』問題の実態と解決への道筋』では中央道笹子トンネル事故等を例に挙げ「老朽化」の怖さを示しながら問題点は官に決定権があることとして「官が決定する前に民の提案を受け入れること」が必要と説いている。根本裕二氏は1978年に日本開発銀行に就職し首都圏企画部長、地域企画部長などを経て2006年に東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻教授に就任している(以上ウィキペディアより)。経歴から根っからの民活推進論者である。また公民連携推進協会PPPI代表も務めている。有識者会議を傍聴したある人は目黒区の部課長はメモを取るだけだったと言っているし会議録をみても管理職の発言を叱責する強権的な姿勢が目立つ。このような人物が主導した民活路線を区有施設見直しのリーディングプロジェクトである区民センター整備の「大きな視点」にして良いわけがない。</p> <p>意見5 14ページ 第1章 区民センターをめぐる状況 6 区民センター見直しの方向性 (3)新たな区民センターの未来像(コンセプト)として「未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」“できる”が広がる創造空間となっている。耳障りの良い言葉を羅列しただけで全く具体性にかける。ただ言おうとしていることは12ページの「将来を見据えた社会潮流の変化への対応」にある多様化・流動化への対応として施設の空間や機能をご</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による影響については、区民センターにおいても十分留意していく必要があると認識しており、基本的な考え方にもまとめましたように、新たな社会を見据え、変化に対応できる空間の実現に向けた検討を進めていきます。</p> <p>なお、区民センター見直しは区有施設見直しのリーディングプロジェクトであり、今後の区有施設更新のモデルケースとする必要があります。区民センターだけではなく、すべての区有施設を区だけでは更新できない現状を踏まえても、民間活力の活用は不可欠です。</p> <p>また、中間のまとめ以降も、地域住民を中心としたワークショップや利用者アンケート、アイデア募集など、これまで区として実績の少ない多様な住民参加を重ねています。また、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も引き続き、区民の方々への周知と共に、積極的な住民参加を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>ちゃまぜにして提供しようという意図は伝わってくる。それが「つながる」イメージと思われる。その社会潮流の変化のもととなるデータも全く示されていない。コロナ時代のコンセプトを新たに考えるべきである。私は少人数、分散、リモート、環境、公共が新たなコンセプトには必要と考える。</p> <p>意見6 21ページ 第1章 区民センターをめぐる状況 6 区民センター見直しの方向性 (6)新たな区民センターの実現に向けた施設整備方式のパターン (イ)民間活力の活用において民間活力活用度合いの3パターンが例示されている。パターン①の未来像(コンセプト)に合った空間整備実現に向け、民間活力も最大限活用が一番未来像(コンセプト)実現可能性が高いという評価がすでにされていてそれ以外の選択肢は無いように示されている。しかし意見5で述べたように空疎なコンセプトではなくコロナ時代の切実なコンセプトに変えることで評価は全く変わると思われる。区民センターと美術館、区民センター公園の合計の敷地面積約21,527㎡は豊島区が新庁舎を建てた市街地再開発面積約8,330㎡の2.58倍という広さである。そこにどのような施設、建物が建つのかは目黒区の将来にとって大きな影響がある。コロナだけでなく首都圏直下型地震や地球温暖化による風水害から区民の命と暮らしを守る施設がこんな軽薄なコンセプトで作られていいわけがない。入口からしっかり区民や関連住民と意見交換をして基本構想(中間のまとめ)を一から作り直すべきである。</p> <p>意見7 56ページ 第2章 「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けて 4 意見募集で「本資料は、検討素材にいただいた意見を踏まえながら」とあるが目黒区にとって都合の悪い意見は「今後の参考とさせていただきます」と却下し、場合によっては区民の意見を逆手にとって目黒区が進めたい方向に誘導する姿勢も見られます。例えばNo.104で「母校である下目黒小学校が、大きな施設に組みこまれてしまうのはかなしいです。」という否定的な意見に対して「一体的に整備することで学校側が新たな区民センターを有効活用できれば、教育活動のさらなる充実が期待できます。また、放課後においても子どもたちの豊かな人間性を養うための取組の可能性がひろがり、さらに、学校が地域の拠点としての機能を併せ持ち、児童や地域の方々とのかかわりの場となることは、子どもたちの育ちを含めた地域コミュニティの形成の観点からも有益であると考えられることから、一体的な整備を検討するものです。」と一体化ありきで聞いてもいない教育論まで展開する始末である。パブリックコメントを行う以上、反対意見にも謙虚に耳を傾けその実現に向け真摯に検討されることを願うものである。</p> <p>以上</p>	

No	意見	今後の検討の方向
15	<p>時々、美術館にも足を運びますが、主に社会教育館と図書館を利用しています。その行き帰りに改めて歩いてみましたが、敷地は申し分のない広さです。どんな複合施設になるのだろうと夢はふくらみます。「中間のまとめ」を読ませていただきましたが、各視点からのご意見を寄せられた沢山の区民の方々も想いは同じだと思います。</p> <p>①公園について 施設全体の中で、公園の位置づけは、とても重要だと思います。緑豊かな自然環境には同感ですが、整いすぎると窮屈です。樹木の植栽は敷地の周囲のみとして、その緑陰には是非、ベンチを置いて下さい。中央部はあくまで建物への入り口となるような明るい広場、自由な空間が望ましいと思います。施設の利用者のみならず、天気の良い日には足が向いてしまうような愛される広場として核となると思います。</p> <p>②トイレについて 今や日本のトイレは世界にも名だたる先進国らしく有名ホテル、デパートは豪華すぎます。一方、効率優先のビジネスホテルなどは使い勝手の悪いものもあります。公共施設にふさわしいトイレとはどんなものが良いか、是非、専門家に検討していただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、車いす利用の方、乳幼児連れの方、と誰にとっても使い勝手の良いトイレを。 ・ドアと便器の距離をゆったりととる。(個室の数が1つ減ることになっても可能なかぎり余裕を。) ・感染症対策としてセンサー対応の手洗い ・壁の色、床の素材など 	<p>新たな区民センターにおいては、区としても公園や目黒川など、自然を活かした空間づくりは大きな要素だと考えており、誰もが集い、憩えるような公園を目指していきます。</p> <p>現在の区民センターにはだれでもトイレが建物内になく、またオストメイト対応やベビーチェアなど、公共施設として求められる整備が不十分である点も大きな課題として認識しています。新たな区民センターは、現状の課題を踏まえ、だれでも使いやすい施設としていきます。</p>
16	<p>○区民センターについて 昔は一般の人が多かったが、最近では常連の利用者しかいない。</p> <p>○図書館について テーブルが少なく、重たい本を読むとき不便。丸テーブルを置いてはどうか。工夫してほしい。 長時間使用している人がいるので、利用制限してはどうか。特に、地下は長時間常態的に着座している人がおり、利用者が減っている。</p> <p>○本館の3階以上の部屋は扉が閉まっていて、中で何をやっているのか、使用しているのか、部屋がどのようなものなのかわからない。ガラス張りにして中を見やすくすれば、利用促進にもつながる。</p> <p>○立地について 公園が利用しにくい。通り抜け程度でスペースが余っている。マンション側の影になっているところは、夏でも使わない。このスペースは建物を建ててはどうか。 テニスコート側は日当たりもよい。自由なスペースとして、だれでも入れ替わり立ち代わり来られるようにしてはどうか。 各棟との間も喫煙所や自販機周辺はたまり場になっている。動線を考えた配置にしてほしい。</p> <p>○公衆トイレについて 利用しづらい。落書き防止なのか夜間は鍵が閉まっているのでは、意味がない。中が良く見えるようにしてほしい。</p>	<p>新たな区民センターにおいては、誰でも利用しやすく、また特定の目的が無くとも訪れたいような空間づくりを目指していきます。限られた敷地の中で実現するには、機能の配置や仕様などに留意し、効率的な活用を図っていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>○ホールについて ホールの上部空間をもっと活用してはどうか。 設備が不十分。スクリーンで映像を上映したり色々な用途に使ってほしい。 区の南側にも大きなホールを造るべきだ。</p> <p>○プールについて オフシーズンはゴミだめになっている。蓋をしてバスケをできるようにしてはどうか。プールの底に照明をつけて、メンテナンスや事故防止に役立ててはどうか。</p> <p>○体育施設の上部空間について 体育施設の上部空間に回廊を設けて、だれでも回遊できるようにしてはどうか。途中必ず監視室を通ること で、管理もできる。外が見えないような曇りガラスなどで注意散漫にならないようにし、換気は上下の窓を開放 する。 以上、提案です。</p>	
17	<p>現在、目黒区民センター内、勤労福祉会館屋上に設置されている洋弓場の利用者団体として、建て替え後にも同様の施設として存続されることを要望致します。</p> <p>同施設は建設以来長きに亘って目黒区アーチェリー協会の活動拠点として毎月開催される月例射会をはじめ各種大会の開催など協会活動を支えて参りました。</p> <p>また勤労者のための生涯スポーツとしてのアーチェリーの普及にも活用されており、ここの初心者講習会から巣立ちアーチェリー選手として活躍されている人々も数多く輩出致しております。更に毎年夏休みに中高生対象のアーチェリー教室を開催して青少年健全育成にも協力致しているところです。</p> <p>スポーツとしてはメジャーとは言い難いですがオリンピック種目としてメダリストを輩出している種目でもあります。例えば現東京都体育協会の山本博会長もかつて中年の星と言われたアーチェリーのオリンピックメダリストで、ロサンゼルスで銅、アテネで銀と2つのメダルを獲得しています。</p> <p>この洋弓場が失われることは、目黒区のみならず都内・近県アーチェリー愛好者全ての嘆きとなります。この辺りの事情にご配慮頂いて、アーチェリー愛好者の希望が叶えられるように存続を要望致します。</p> <p>更に希望を述べさせて頂けるのであれば現状の30mの射場では距離が短すぎます。出来得れば50mまで競技出来る射場があれば都内他区の施設に負けないものになります。一つのアイデアですが、屋外50mプールを利用して水泳オフシーズンにアーチェリー場に転用するとか体育施設全体を見直すなかで柔軟に考えて頂けたらと思います。</p>	<p>新たな区民センターをより多くの方々に利用していただける施設とするため、限られた敷地の中で、これまで以上に各機能の融合化を促進していく必要があります。スポーツ機能においても、今後の区民ニーズを見据えながら、様々な可能性を含めた検討を進めていきます。</p>
18	<p>区民センターホールについて 毎年の文化祭に参加13団体からの要望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.パーシモンホールでは大きすぎ、小ホールでは小さく、つまり現在の区民センターホールの400から500人収容のホールにして欲しい。 2.現行の舞台が狭すぎ、3倍くらいほしい。 3.楽屋、控室を舞台と同じフロアーにしてほしい。 4.高齢者に配慮した設計をお願いしたい。 5.運営管理をパーシモンホールと同じ(公財)芸文でお願いしたい。 <p>以上</p>	<p>現在のホールの規模は、区民の利用のしやすさという観点でのニーズは大きい一方、通座席の段差や舞台と楽屋をつなぐ階段の勾配、エレベーターの未整備など、バリアフリーの課題も大きいものと認識しています。現在のホールの規模は、区民の利用のしやすさという観点でのニーズは大きいものと認識しています。限られた敷地の中で、どのように機能を継承し他の施設機能との効果的な融合化を図れるか、また民間活力の活用といった点にも留意しながら検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
19	<p>区民センター公園についての意見</p> <p>目黒区は昭和60年に平和都市宣言をして次世代に平和の願いをつなぐ場所として公園を作っている。8月6日の広島原爆の日に広島で鳴らされる目黒名誉区民、人間国宝、香取正彦氏の鐘と同じ鐘(香取氏より寄贈)が区民センターの鐘楼にあり、やはり8月6日に区民有志により被爆者慰霊の鐘を鳴らす。鐘楼の周りには被爆2世のアオギリや長崎被爆2世の柿の木が今では枝いっぱい緑の葉を繁らせている。目黒区はこの公園を「目黒平和公園」として、後世まで伝えてほしい。平和を願う区民の憩いの場としても緑を残してほしい。</p>	<p>区民センター公園にある平和の鐘は、昭和60年の設置以降、区の平和記念事業における打鐘のほか、日ごろ区民センターを訪れる方々をはじめ多くの区民に親しまれています。検討は、区民センター公園がこれまで果たしてきた役割を踏まえながら進めていきます。</p>
20	<p>1. 施設整備の方向性(P.20) 改修でなく、①あるいは②が良い。</p> <p>2. 各施設の課題(P.31,36,45) 同規模の建物整備が不可能なので既存の各施設を事業内容によって集約、再編する必要があります。例えば勤労福祉会館、中小企業センター、商工会議所目黒支部の統合、消費生活センターと男女平等・共同参画センターの再編、社会教育館と青少年センターの統合など。少子高齢化、働き方改革などアフターコロナを見据えた機能のあり方を考えてほしい。</p> <p>3. 民間活力の導入など(P.46) 上層階の賃貸住宅の導入は問題がある。すでに周辺地域には高層マンションが林立しており、これ以上の人口増は防災、防犯の点で対応が困難では？</p> <p>4. 美術館、図書館の一体化 両施設は区民の文化・芸術活動を支える施設であり、来場者は静粛を求められるので同じスペースでの利用が可能である。そのほか男女平等・共同参画センター資料室、めぐろ学校サポートセンターの教科書展示などを纏め、区民が総合的に学べるスペースにし、現在、美術館にあるラウンジと区民センターの食堂を一体化し、目黒川の水辺を楽しみながら食事出来る民営の店舗とするなど。</p> <p>5. 区民センターホールの機能(P.24) 周辺地域はパーシモンホールが遠いため、ホール機能は残してほしい。ここに民間活力を導入し演劇、音楽上演など、集客、収入を期待できるプログラムを企画するなど。</p> <p>6. 区民センター公園の樹木は保存し、一層の緑化をする(P.24) テニスコートは一部の利用者のためのスペースとしては広すぎるので、体育館と一体化すれば緑地面積を確保できると思われる。</p> <p>7. 目黒清掃工場の余熱利用(意見No7) 建設が始まる新目黒清掃工場の余熱利用については、早急に事業者との協議が必要。</p> <p>8. 目黒区が誇れる公共建築にしてほしい。(P.36) 例えば設計を有名建築家のコンペで選ぶ、素材にこだわり一部木造にするなど話題性のある建築物にすることで、広範囲の利用者を呼び込めるのでは？</p>	<p>現在の区民センターは、各機能の空間や事業に類似している面もあることから、新たな区民センターでは、多様な面で効率化を図り、複合施設全体でより相乗効果を発揮できる機能間の融合、縮充を進めていきます。</p> <p>なお、清掃工場の余熱利用については、現在も温水プールの熱源として利用しており、新たな区民センターにおいても、どのように活用できるか、検討していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
21	<p>○「19ページ 新たな区民センターの空間イメージ オ はたらく 区民の多様な働き方に対応できる、区民が落ち着いて作業に取り組める空間 セカンドオフィスとしての利用も可能な空間」 となっていますが、直接的に働く場所としての空間を確保するだけでなく、働く意欲のある区民が様々な働き 方の情報を得ることができる空間の確保を検討することも有効ではないでしょうか。</p> <p>○「37ページ 周辺施設機能の集約化」では、男女平等・共同参画センター、青少年プラザ、下目黒住区セン ター内住区会議室の施設機能を対象として検討していくとされていますが、田道ふれあい館内の田道住区会 議室や高齢者センターの集会室についても、利用状況を調査して集約化の可能性を検討することも必要では ないでしょうか。住区会議室は住区単位での整備、高齢者センターは高齢者の施設という設置の基本的な考 え方はありますが、現状の利用実態を把握したうえで、より有効な活用策を幅広く検討することも必要では ないでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、今後の社会においては、働く場所と しての空間はもちろんのこと、働くための情報を得 て、活用するための機能も求められるものと認識して います。今後は、これまでのように施設に集まることだ けを前提とせず、施設を訪れなくても情報を得ること ができるなど、区民の生活スタイルを見据えたサービ スが必要だと考えています。 周辺施設の集約については、既存施設との親和性 や相乗効果など、総合的に検討を進めていきます。</p>
22	<p>日々の活動取り組み大変にお疲れ様です。区民センター基本構想に関してはトータル的に申し上げる知識、 経験はありません。ただ長期にわたり毎年区民センターホールを利用して頂いたことに深く感謝してお ります(目黒区民謡連合会)。今年の台風19号、今年のコロナウイルスと2年にわたり中止となりましたこと本当 に残念な思いです。 今後センターホールが建設されることになれば希望、要望として一段とバリアフリー化に注力していただき、入 り口をはじめとしてエレベーターホール、トイレ、会議室、練習場等々が同じフロアに設置できれば大変、有り 難く思います。勝手な要望かと思いますがよろしくお願い致します。</p>	<p>現在のホールの規模は、区民の利用のしやすさとい う観点でのニーズは大きい一方、座席の段差や舞台 と楽屋をつなぐ階段、エレベーターの未整備など、バ リアフリーの課題も大きいものと認識しています。現 在のホールの規模は、区民の利用のしやすさという 観点でのニーズは大きいものと認識しています。限ら れた敷地の中で、どのように機能を継承し他の施設 機能との効果的な融合化を図れるか、また民間活力 の活用といった点にも留意しながら検討を進めてい きます。</p>
23	<p>いつも利用させていただき感謝致しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民センターホール 客席数・・・500席位 舞台・・・現在の2倍位 控室・・・便利に 管内・・・エレベーター設置 ・社会教育館 <p>①現在より照明もう少し明るく ②窓の設置 ③部屋(研修室)の配置等考えていただければ快適です。 ※美術館は眺望もよく、中も充実しているので、そのまま残していただきたい。</p>	<p>現在のホールの規模は、区民の利用のしやすさとい う観点でのニーズは大きい一方、座席の段差や舞台 と楽屋をつなぐ階段、エレベーターの未整備など、バ リアフリーの課題も大きいものと認識しています。現 在のホールの規模は、区民の利用のしやすさという 観点でのニーズは大きいものと認識しています。限ら れた敷地の中で、どのように機能を継承し他の施設 機能との効果的な融合化を図れるか、また民間活力 の活用といった点にも留意しながら検討を進めてい きます。 区民センター内の貸室についても、これまでどおり ではなく、現在の利用のされ方を踏まえた柔軟で多様 な利用に対応できる空間づくりを検討していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
24	<p>今後の目黒区のシンボルにもなる「新たな区民センター」の実現に向けて、新たな空間整備を可能とするため、区民センター、美術館、区民センター公園、下目黒小学校の敷地を含め、学校と一体的に建替えを実施するという施設整備の方向性に賛同します。</p> <p>また、下記の理由から、基本構想において、新たな区民センターを地域の防災拠点として明確に位置づけるべきと考えます。なお、本地区は目黒川に近接していることから、震災に加え水害に対しても機能継続を可能とする対策(建物の浸水対策、自立した電源・冷暖房機能の確保など)を図る必要があると考えます。</p> <p>(1)「目黒区区有施設見直し計画(平成29年6月策定)」において、見直し方針:視点4として「区民の安全・安心のため、区有施設における防災機能を確保する。」(P.25)との方針が示されており、近年の風水害の激甚化を踏まえれば、区有施設の防災機能の強化はより一層重要になること。</p> <p>(2)下目黒小学校は、目黒区地域防災計画において、地域避難所に指定されており、下目黒小学校の敷地を含めた学校との一体的な建替えにあたっては、新たな区民センターが地域避難所としての機能を担う必要があること。</p> <p>(3)本中間まとめに記載の「検討素材への意見」(28.29.30)において、浸水対策を十分に施したうえで、避難所機能の設置や防災拠点としての役割を期待する意見が提出されており、地域のニーズとして新たな区民センターにおける防災機能の確保が求められていること。</p>	<p>区民センターの敷地は、目黒川沿いという恵まれた立地である一方、水害ハザードマップでは水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p>
25	<p>「新たな区民センターの基本構想」が住民参加のもとに進められていることは民主主義尊重と共に、より区民に愛され存在価値を高める、区民活動の拠点としての区民センターとする為にも、このような機会を重ねながら進めていく方向性に賛意を表明します。そのうえで「区有施設見直し計画」の際に提出した意見「基本構想策定にむけて」掲載、No74に加えて、以下の2点を当団体の意見としてご検討いただきたくお願いをいたします。</p> <p>1、新たな区民センターの実現に向けた施設整備の方法のパターンについて</p> <p>①の既存の区民センターに加え下目黒小学校を含めての一体整備は行き過ぎではないでしょうか。学校は法的にも異なる組織体であることから当団体としては下目黒小学校は「学校施設更新計画」で検討すべきではないかと考えます。</p> <p>2、民間活力の活用について</p> <p>民間活力の活用は、行政機能に無いものだけにし、施設管理と施設運営を一括の、いわゆる丸投げにならないように進めて頂きたいと思えます。</p>	<p>中間のまとめ以降も、地域住民を中心としたワークショップや利用者アンケート、アイデア募集など、これまで区として実績の少ない多様な住民参加を重ねており、今後も引き続き、区民の方々の住民参加を進めていきます。</p> <p>下目黒小学校については、築年数や区民センターの有効活用による教育活動の充実などの観点から一体的な整備を検討するものです。今後も関係部署と十分に調整しながら、施設サービスの向上につながるよう検討していきます。</p> <p>民間活力を活用した場合でも、活用方策に応じて区の責任を明確にし、民間活力を活用する本来の目的である区民サービスの向上に向けた検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
26	<p>目黒区手をつなぐ親の会と申します。当会は、知的障害者の親やきょうだいの会として、会員数は現在275名、60年以上活動をしている障害者団体です。</p> <p>前回(令和元年10月)の意見募集時に提出させていただいた項目につきまして、今後の検討の方向をお示しください、ありがとうございました。</p> <p>この度の令和2年6月の目黒区民センター・中間のまとめも拝見し、前回、当団体より提出しました意見を見直し、「策定に向けた基本的な考え方」に沿った意見として再度まとめました。4の共同住居に関しましては、新たな区民センターの趣旨に沿う施設ではありませんが、P37の12行目に、「なお、施設機能の集約化・融合化等に伴い周辺施設に跡スペースが生じた場合、喫緊の行政課題への対応のほか、」とありましたので、不足している知的障害者の住居を区有施設跡地等を利用し建設していただきたいと参考意見として記載しております。</p> <p>ご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>1 施設全体のバリアフリー化およびプール設備の徹底したバリアフリー化を実現してほしい。</p> <p>プールの更衣室は、南部地区プールのように重度の障害児者が介助者と一緒に利用し着替えができるものを設置してほしい。また、軽度の障害児者は広い多目的更衣室(ベッドや便器付)よりも、本人・介助者の着替えができる程度の省スペース型更衣室が複数用意されているほうが、多目的更衣室満室のためプール利用を断念することも減少するので有り難い。また、南部地区プールのような入水スロープは、ユニバーサルデザインとして全ての人の利用しやすさにつながるので、前向きに設置検討していただきたい。下目黒小学校を含めて一体整備するなら、小学校のプールと併用することで、バリアフリー化、ユニバーサルデザインが、障害理解、多様性の尊重という観点からもより生きてくると感じる。また、施設利用にあたって、障害者駐車場スペースについても配慮をお願いしたい。</p> <p>2 施設内のカフェ、販売店、ドリンクスタンド、清掃業務等に障害者雇用を促進してほしい。</p> <p>目黒区内には軽度知的障害者が働く場や、それをサポートする仕組みが不足していると思われる。消費税も最低賃金も上昇する中、障害者にも確固とした働く場を目黒区内に築き上げ、障害者の生活向上につなげてほしい。また、区民センターのような公共の場で障害者が懸命に働く姿を区民が目にする事で、障害理解も広がると思う。公共施設内で障害者の働く場を創出してほしい。前回、清掃業務を請け負いたいという事業者の意見もあった。ぜひ、実現していただきたい。</p> <p>3 区内作業所の自主生産品を販売するコーナーを作してほしい。</p> <p>福祉の店さんまるしえのような自主生産品を常時販売できる場所をつくってほしい。特に生活介護施設に通う障害者にとっては、自主生産品の売上高は工賃に直に影響しており、重度障害者だとしても働く喜びや対価を得る喜びは人間として必要であり、生きる力につながるものだと思う。自主生産品の販売機会拡大のためにも場所を提供してほしい。また、販売コーナーは区役所販売のように、通所施設の障害者が行えば、区民とふれ合うことで障害者理解促進の場としての位置づけになると期待できる。</p> <p>4 知的障害者と健常者が交流できるような共同住居を作してほしい。</p> <p>四中跡地に障害者グループホーム沙羅の家清水が完成したが、将来的にも、まだまだ知的障害者の住居は不足している。区有施設や区内の公有地・国有地見直しの際には、知的障害者が住み慣れた目黒区に親なき後も暮らしていけるような居住の場を作してほしい。その際は、これからの共生社会を目指すべく、例えば、知的障害者と学生が同敷地内に住めるようユニットを作り、交流やボランティアにつなげるような共同住居の建設を提案したい。また、住居が整備されたとしてもスムーズに入所できる障害者ばかりではないので、日ごろから環境変化に対応できる力や、自立した生活・社会的マナーを身に着ける訓練の場として、短期入所の床も</p>	<p>新たな区民センターにおいては、様々な方にとって利用可能な施設とすることが重要であると認識しています。限られた敷地の中でどのように多くの方が使いやすい空間としていくか、今後も多様な利用者の声を聴きながら検討を進めていきます。</p> <p>その他の具体的な工夫方策等に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>併設してほしい。できることなら、区民センター内に建設していただきたいところではあるが、機能の融合化や周辺施設機能の集約化、効果的・効率的な空間利用を考えた時、さらに都市計画上の課題や地理の特性を踏まえると、区民センター周辺の区有施設を統合することによって生じる周辺施設の区有地の跡地を利用して、建設していただくことの方がより現実的と思われる。ぜひ、周辺施設集約後の区有施設跡地利用も含め、ご検討いただきたい。</p> <p>5 福祉避難所として迅速に開設できる場を平常時から準備しておいてほしい。 災害時、障害児者にとって、地域避難所での生活は非常に困難であるため、福祉避難所の開設に日数がかかることは、大きな問題である。現在、区内の福祉避難所として指定されている施設は、日中活動で使用されている施設ばかりなので、福祉避難所としてはすぐには利用できない。そのため、それらの施設とは別に、バリアフリー化された区民センター内の多目的なホールや会議室などを福祉避難所として、災害時に設定し、迅速な開設と安定した運営ができるような仕組みを準備しておいていただきたい。災害の状況によっては、垂直避難が必要となることも考えられるので、避難所として利用可能になりうるホールや会議室をなるべく高層階に作っておいていただきたい。また、緊急事態に備えて、屋上にヘリポートがあるとより安全ではないかと思うので合わせて検討していただきたい。</p> <p>6 障害者団体の拠点となる場所を提供してほしい。 当団体は、障害者団体として創立60年を超え、会員も年々増加し区内最大の障害者団体として成長しているが、これまで会の連絡先(住所・電話番号)は会長の個人宅となっており、会長が代わる度に会の連絡先変更を重ねてきた。個人情報保護の観点でも、一個人宅を拠点とするのは現代では危険性が高いと感じているが、区内で事務所を借りることは会の財源的にも難しいところである。会はこれまでに区内の福祉や特別支援教育について、区と協働しながら目黒区の発展に貢献してきたと自負している。今後も区内でより良い福祉活動を継続するために、当団体の拠点、もしくは他の障害者団体(懇話会等)と共有の拠点となるべく場を、区民センター内に提供していただきたい。周辺施設内にあるめぐろボランティア・区民活動センターなども集約した複合施設になるのであれば、ボランティアセンターと障害者団体で、より連携ができるようになり、可能性が広がるのではないかと。現在、あいアイ館が、障害者団体の活動や交流の場となっているが、このたび、あいアイ館に重症心身障害児通所支援事業所が開所した。この事業所には、医療的ケアが必要な障害児も通うことから、より感染症予防対策の配慮が必要となるため、今までのように障害者団体が気軽に活動や交流を行うことが難しくなるのではないかと懸念される。大会議室(講演会やイベントに使用)、中会議室(定例会や交流会に使用)、多目的室(ヨガ教室に使用)・調理室(料理教室に使用)・文化活動室(フラワー教室に使用、電源プラグが多数配備されていると良い)、障害者団体の窓口やロッカーが設置できるスペースなど、障害者団体が気軽に活動・交流できる拠点が区民センター内にあると非常に有難い。また、公共機関を利用して通うことが難しい障害児者も多いため、あいアイ館のような充実した障害者用の駐車場や駐輪場等のスペース確保と利用料金の減免、コミュニティバスの運行など、区民センターに通いやすいような配慮をお願いしたい。</p>	

No	意見	今後の検討の方向
27	<p>新型コロナウイルス感染症の登場で、「新しい日常」が提起されています。その中身については様々な評価があるでしょうが、今までの尺度をいったん捨てる覚悟が求められています。</p> <p>「区民センターを新しくする」と言う大きな事業を進めるにあたって、「感染症対策」を含む安全への視点は、今まで以上に重大視しなければならないと思います。最近の豪雨は、想定されているのでしょうか。コロナ以前の計画を慎重に見直す必要があることは当然です。計画を拙速にすすめることなく、各分野の専門家の知見はもちろん、各施設の運営者・利用者の「今」の声を十分に聞き取ってほしいです。</p> <p>1 すべてを建て替えるか、残して補強する施設もあるのではないかと、当事者の意見を十分に聞き取ってほしい。(美術館は、現在の施設を守りたいという声を聞く) また、「集約」をすることによるリスクの研究が必要だと思う。</p> <p>2 民間事業者の参画は、ハード面に限って欲しい。運営の主体は行政に担ってほしい(区に責任を持って運営してほしい)。 運営についての検討を、各施設の当事者を交えて行ってほしい。それによって、ハード面での見直しが生じる可能性もある。</p> <p>3 中目黒スクエア内の施設の存続をどのように保障するのか。当事者と共同研究する場を設けるべきと思う。</p> <p>4 下目黒小学校は、公立小学校としての機能を十全に果たすために、区民センター内に吸収することには賛成できない。学校は、区有施設という位置づけでは括れない。学校現場、教育委員会との共通理解を図るべきではないか。</p> <p>5 現在審議中の「目黒区長期計画」との整合性は、考慮するのか(「長期計画」は未確定)。 以上順不同になりましたが、これからどんな未来が訪れるのか「想定外」という言葉を使わなくて済むように、すべての英知を結集して慎重に検討していきたいです。</p>	<p>整備手法については、既存の躯体を維持しながら改善できる内容及びその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮すると、建替えが最適だと考えています。</p> <p>民間活力を活用した場合でも、活用方策に応じて区の責任を明確にし、民間活力を活用する本来の目的である区民サービスの向上や効率的な維持管理に向けた検討を進めていきます。</p> <p>また、令和2年10月に策定した目黒区基本構想(素案)では、「未来を見据えた持続可能な行財政運営」を区政の運営方針として掲げ、区有施設の計画的な更新に的確に対応することとともに、起こり得る変化に適応した施策を展開していくことを定めており、新たな区民センターのコンセプトはこの方針に沿うものと考えます。</p>
28	<p>目黒区民センター周辺の未来像について私の周囲でも様々な意見があり、私自身も意見を寄せたが、新型コロナウイルスのパンデミックや線状降水帯による豪雨などこれまでと全く様相の異なる自然災害を前に、これまでの議論は一旦白紙に戻さざるを得ないと思う。少なくともコロナ収束までは、様々な可能性を探るのは構わないが検討を進めるべきではない。</p> <p>①新型コロナウイルス蔓延により「集う」ことができなくなった。 社教館・住区センターなど、定員が半分になり、夜間の利用ができないため、社会人などが気軽に集まることができなくなった。利用の仕方も非常に制限があり、これまでのような活動は難しい。 区民センターホールも、換気のしやすさ、観客間のディスタンス確保、交差の生じにくい動線など、これまでとは全く違った観点からのチェックに合格できる設計が必要であり、まずその評価基準を作ることが先決である。 新型コロナウイルスは数年のうちに収束すると思われるが、新たなウイルスによる第2、第3のパンデミックが起こることを前提にした「新たな活動形態」を策定し、それに沿った施設の設計、利用の方法を考える必要がある。</p> <p>②自然災害の大型化 これまで防災と言えば地震対策だったが、最近豪雨による洪水や停電など全く想定していなかった災害により実際に被害が生じている。「これまでに経験したことのない」という警報を年に何度も聞くことが全く珍しくなくなっている。目黒川でも1日で100ミリ以上などという猛烈な雨が降った場合を想定し、避難と治水の両面で被害を最小にできる設計が必要だと思う。</p> <p>③「リモート」の浸透によるファミリー層の行動変容 目黒区はおしゃれな街として若者の人気を集めるだけでなく、通勤等の利便性が高く教育環境等も充実した立地として、子育て中のファミリーの人気を集めてきた。しかしリモートワーク、リモート授業等の普及により、人</p>	<p>新たな区民センターにおいては、これまでのように施設に集まることだけを前提とした施設整備ではなく、利用における時間や方法、空間の多様な選択に柔軟に対応し、施設に訪れなくても情報を得る・利用を可能とするためのICT化など、今後の区民の生活スタイルの変化を見据えた空間づくりが求められることから、時代に合わせた質の高い過ごし方、新たな価値を生み出す様々な変化に対応することのできる公共空間を目指していきます。</p> <p>また、区民センターの敷地は、目黒川沿いという恵まれた立地である一方、水害ハザードマップでは水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p> <p>なお、民間活力の活用については、計画の進捗に合わせて適宜サウンディング調査を行うなど、社会状況や経済状況の動向を注視していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>の密集する都心から自然豊かで生活コストの低い地方に拠点を移そうとする潮流が発生している。一方で過去最大の赤字を計上する企業も枚挙のいとまがなく、収入減により都心を離れざるを得ない家庭も相当数に上ることが予想される。</p> <p>また、10階以上の高層住宅に住む子どもの知的発育や住民の健康が下層階の住民より劣るとの学術報告もある。さらに豊洲のオリンピック選手村の販売問題など、イメージダウンの要素は非常に多い。</p> <p>こうした状況を総合的に見ると、タワーマンションブームがいつ終了しても全くおかしくない。規模は違うが新築の店舗、アパートがいつまでも空室という実例はすでに日常である。</p> <p>金融機関、ゼネコン等はこうした潮流に敏感であり、「民間活力導入」プランが採用された後に「はしごを外された」状態になることも十分に考えられる。その時に柔軟にプランを変更できれば良いが、「決まったことは変えられない」となれば目黒のブランドイメージ、財政、区民との関係は大きく傷つくだろう。</p> <p>①、②、③と見てきたように、新型コロナウイルスのパンデミックに対応した計画変更、自然災害の激化による防災計画の見直しが今の最重要課題である。柔軟な計画の停止、見直しによって、「情報把握、発信に疎い」との評価を一蹴されるよう願いたい。</p>	
29	<p>高度成長期からの建造物、インフラが老朽化してきている。これからの施設は、できるだけ“持続可能”で環境に配慮したものであることが第一だと思う。</p> <p>その上で区民センターの未来像(コンセプト)を実現して頂きたい。</p> <p>地域の人々が結びつき、学びや表現の場があり、より良い暮らしにつながるコンセプトはいいと思う。まず生活の根本である「健康と安全」が重視される目黒区であって欲しい。</p> <p>その点から目先の交流の場や一部の利用者の便宜ではなく、将来にわたる区民の生活と目黒区の活性化につながるものを期待します。</p> <p>① 既存の施設の統廃合と有効利用。区内にいくつもホールは要らないし、中途半端な会議室を維持する必要はない。</p> <p>② 例えば、下目黒小学校と体育館やプールを共有していく。</p> <p>③ 美術館は現状維持もしくはギャラリーだけ残し、区民などの発表の場とする。東京都には素晴らしい美術館が数多くあり、近隣でも東京都庭園美術館があります。区の予算を使って中途半端な美術館を持つ意味がわからない。世田谷のように在住作家が多く所蔵作品の幅が広いのは例外だと思います。箱物で文化的な区であると考えるのは安易。</p> <p>④ 防災の拠点としての機能。現在コロナ感染問題でもわかるように、危機管理が都市生活は脆弱です。目黒区は先駆けて今後起こりうる災害に備える。</p> <p>⑤ 健康的な生活は、ジムのような設備ではなく、“自然”と共生できる環境から生まれます。これから100年先まで考え、誰もが憩える空間を都会だからこそ整備、拡充する。それは世界の大都市、パリ、ロンドン、ニューヨークなどに見られます。</p> <p>⑥ 高層化には反対します。将来的な人口減少、高齢化からみても、その維持修繕を考えると無駄です。大型化ではなくスマート化する。</p> <p>⑦ 多様性を尊重するのであれば、高齢者、保育、障害者と区分けするのではなく、それらが有機的に共存できるようなスペース、仕組みを提供する。学生と社会人が交流するような施設。</p> <p>⑧ 運営に民営の力をうまく使うべきですが、民営が提供するありきたりなカフェやショッピングといったものに依存せず、決められた路線にこだわらず柔軟に改善していく。</p> <p>以上、ご参考にして頂ければ幸いです。</p>	<p>新たな区民センターは、社会・地域における人々の信頼関係や結びつきに貢献し、将来にわたり区民の生活水準の向上につなげる役割を担う空間となることを目指していきます。</p> <p>個別の機能については多用途に利用できる空間づくり、貸室機能の縮充など、機能の融合化を図っていきます。</p> <p>検討の中では、施設だけではなく目黒川や公園を活かした空間づくり、地域特性を踏まえた防災機能の向上に留意していきます。</p> <p>また、民間活力は財政負担の軽減だけではなく区民サービスの向上に欠かせないと考えており、活用に当たり、柔軟な運営は不可欠だと考えています。</p>

No	意見	今後の検討の方向
30	<p>コンクリート建造物の耐用年数60年で既に45年経過し補修の方法もあるが将来を考えると建替えを進めるべきと考える。</p> <p>インフラ整備は時間雨量が50m/mで完成しておるが温暖化の影響？オーバーが頻発しており、目黒川の氾濫、浸水を考慮し計画を進めるべきと考える。</p> <p>民間資本を導入、高さ規制は存在するが大橋の教養施設の様に住宅を建築し、管理・運用を委託し、区の借金を極力減らすことが肝要である。</p> <p>美術館から下目黒小学校周辺の道路を整備することも併せて進めるべきと考える。</p>	<p>整備手法については、既存の躯体を維持しながら改善できる内容及びその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮すると、建替えが最適だと考えています。</p> <p>区民センターの敷地は、水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p> <p>民間活力の活用は、ご意見にあるような民間資金の活用の効果もありますが、施設サービスの向上や効率的な維持管理なども目的として、効果的に活用していきます。</p>
31	<p>私は区民センター公園を日ごろ利用している者です。そこで感じることを言わせていただくと、まず、公園部分のスペースが今より狭くなることのないように望みます。特に樹木が伐採されることがないことを強く希望します。</p> <p>犬の散歩でこの公園を訪れる高齢者は多くいます。私もその一人ですが、健康維持のためだけでなく、そこに集まった人たちとの会話や情報交換等々が行われ一つの社会が形成されています。集まる人たちは高齢者だけでなく犬を連れて若い人や隣の下目黒小学校の生徒たちも交ってきます。こうしたコミュニケーションの場を生む公園はかけがえのない大事なものです。高齢者といえば看護、老人ホームをどうするといった話題が先行しがちです。しかし、それ以前に健康で元気な年寄りもいっぱいいるわけです。運動施設に限らず、そういう人たちが足を向けたくなり、戸外で過ごせる場所が存在するということは重要かと思えます。そして同公園の魅力を高めるために、例えば、区民センター公園に向かう遊歩道を設けることはいかがでしょうか。そこに様々な樹木を植えて、季節ごとに咲く花々を楽しめる。皆がみな自動車や、自転車で行くわけではないです。区民センター公園に出かけることが社会参加であり健康維持につながる場所になると思います。</p> <p>緑の環境の充実を図るうえでもう一つお願いしたいことは、芝生で覆われた広場の設置です。今のテニスコートの横にある広場からプール横の道全体を一つの広場にしてはどうでしょうか。心安らぐ場所になると思います。下目黒小学校と合せて整備するという考え方も提案されていますが、具体的な姿がよくわかりませんが、小学校の校庭と区民センターの広場が繋がるのでしょうか？もしそうならば一段と広い空間になりますが。さらに言えば、「区民センター公園及び目黒川を含めて一体的に充実した空間としていく…」(中間のまとめP47)のために、目黒川の浄化はぜひ進めて頂きたい。同時に、目黒川をはさんだ向かいにある田道広場、清掃工場緑地そして中目黒公園までをまとめて、一体感が感じられるような何か仕掛けを考えてもらえれば、利用する人も一段と増えるのではないのでしょうか。川沿いに歩くと田道橋、中里橋の両端に横断歩道がないので、遠回りしなければなりません。そのたびに、相変わらず車優先の社会だな、と思わずにはられません。</p>	<p>新たな区民センターについては、これまで以上に目黒川や公園に大きな役割が期待されることから、周辺環境にも配慮しながら、目黒川や公園などを含め、施設全体で居心地の良い空間づくりを目指していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
32	<p>・住民参加の道すじが不明、区民協議会をつくるべき。</p> <p>・下目黒小学校をいれる理由がよくわからない。田道小学校のPTAなどから反発をうけている状況を理解しているのか？</p> <p>・中目黒スクエアを廃止するのかどうか？残ったボランティアセンターなどについてどう考えるのかわからない！！</p> <p>・目黒川という防災の視点が欠けている気がする。大津波がおきたら、どうするのかわからないです！！</p> <p>ともかく、区民の意見をきく、何が区にとって必要か、地域にとって必要かなど検討する場をもうけてほしい！！</p> <p>民活とかは、それから考えるべきで、先にやるべきではない！！</p>	<p>基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p> <p>なお、区民センターの敷地は、目黒川沿いという恵まれた立地である一方、水害ハザードマップでは水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p>
33	<p>(まとめ)に(現区民センターの全面建て替えが最も効果的)と書かれていますが、築45年のRCの構造体を丸ごとすべて解体する行為は、建物の長寿命化を推進している今の時代に逆行しています。もう一度振出しに戻り、1棟1棟の改修、再利用の可能性を精査して下さい。建物の長寿命化を図りながら空間の新しい使い易さや利用率を改善できる環境負荷の少ない目黒ならではの見直し手法を区民の合意を得ながら開発して下さい。</p> <p>現目黒区庁舎は旧千代田生命本社ビルを解体せずに改修し、シビックセンターとして見事に再生させたもので、21世紀型サステナブル建築の模範例として見学者が絶えません。区民センター見直しを区のリーディングプロジェクトと位置付けるならば目黒区民が誇るこの庁舎の思想を迷わず継承すべきです。</p> <p>センターの中で一番規模の大きいA棟は、癖のないオフィスビルのような構造体で、指摘されている機能面、構造面の問題はコストを抑えながら十分改修可能です。現在それぞれの施設が所有している幾つもの貸室の利用効率を改善すれば、青少年プラザや男女平等参画センターの貸室も兼用できる可能性があります。</p> <p>現在のセンターの中庭上部に全天候型の屋根を架ければ、複数の施設の利用者が集える快適なアトリウムが生まれます。</p> <p>ホール棟、図書館棟、体育館棟についても躯体の長寿命化と新たな空間利用の可能性を利用者の意見も聞きながら検討して下さい。利用月の少ない屋外プールについては、屋内プールの拡充を前提に廃止し、そこには目黒川溢水時貯水設備を地下に設け、上部は公園及び川沿い上部には民間施設の誘致が考えられます。</p> <p>多くのファンに支えられている美術館は、緑の中に程よいスケールで佇み、丁寧に造られた御影石張りの建築は、改築の必要性はないと考えます。</p> <p>近距離にある下目黒小学校と田道小学校は、近い将来どちらかの敷地での合築により校地縮減を図り残地の民間活用が可能となります。</p>	<p>整備手法については、既存の躯体を維持しながら改善できる内容及びその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮すると、建替えが最適だと考えています。</p> <p>また、新たな区民センター整備においては、環境負担の軽減などに留意しながら検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
34	<p>いつもさまざまな取り組み、ありがとうございます。 「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)を拝見させていただきました。とても素敵な構想に希望が膨らみ、ワクワクしました。何点か、障害児と保護者の観点から、述べさせていただきます。 どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>p43 図書館での育児サービス機能 ・図書館、カフェなど、保護者が息抜きできる場を利用する際に、一時保育などの育児サービスがあると良いと思います。障害児を抱えて、図書館に行ったり、カフェでお話をしたりなど、なかなかできないのが現状です。</p> <p>p42 室内に乳幼児プールを設置</p> <p>p43 学校図書館や学校プールの融合・共有化 ・学校プールに幼児プールも併設して、季節や天候によらずプール利用を可能にしてほしいです。公立のプールは、オムツがはずれていないと入ることができないようですが、水遊びパンツ着用で入れるプールが小さめでも良いと思います。障害児にとって、オムツが外れていることというルールは、かなりハードルが高いです。</p> <p>p42 複合施設内の動線を工夫・活用 ・障害児者の作品を展示できるスペースがあったら良いと思います。昨年度、障害者アート展が、目黒区美術館で開催され、とても良かったので、このような機会が定期的に行える場所があるとよいと思いました。 ・公園のような遊具やアスレチックがあり、裸足で遊べたり、転んでも危なくない、より安全な室内のこども広場があると良いです。障害のタイプによっては、屋外の公園では危険で遊ぶことができない子どももいます。公園遊びは、心身の発達に必要な要素がたくさんあるので、できることなら、たくさん遊具で遊ばせてあげたいです。そのような場を提供していただけるとありがたいです。オムツ替え、着替え、授乳、休憩などができるベビールーム・幼児ルームが併設されているとさらに良いです。 ・学校の敷地内か隣に、学童保育と児童館と放課後等デイサービスや児童発達支援の施設があり、交流できる空間があるととても良いと思います。特に支援学校に通っている児童・生徒は、地域の児童・生徒と交流する機会がほとんどないのが現状です。学童保育は、交流の場としては、とても良いのですが、保護者が就労していないと入れないこともあり、放課後等デイサービスなどを利用することで、学童保育や児童館とのお友達との交流ができればとても良いと思います。</p>	<p>新たな区民センターでは、利用者や利用方法の多様性に着目し、誰でも、いつでも使いやすい施設としていくことを目指していきます。実現する上では、機能だけではなく空間の細かな仕様や時代に合わせたサービスなどに留意していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
35	<p>区民センターの新構想にたいへん関心を持って、拝見いたしました。隣接する渋谷区、世田谷区、品川区、大田区の動向も勘案できないかと考えます。隣接の渋谷区では、NHKの改築がはじまりますが、関連施設として、世田谷区に研究所・研修センター(また港区には文化研究所・放送博物館)があります。この機会に目黒区でも映像センター・放送スタジオ群(仮称)の新設を検討してみてもどうかと考えます。放送センターを設置するには、ややスペースや緑地面積の面で難しいですが、スタジオ群ほか調整室、前室、控室、メイク室、写真室の設置、また、映像研修センター、宿泊棟、キッチンスタジオ、スタジオカフェ(フリースペース)、デザイン室、スタジオパーク、ファッションエリア(衣装室、理容ルームなど)、リハーサル室、大道具・小道具エリア、映像制作歴史館、映画・映写施設の併設など十分できるのではないかと考えます。搬入搬出駐車場スペースの確保も必要ではないでしょうか。ファブラボの新設を予定していますが、大田区には大田区産業プラザ(区産業振興協会、商工会議所大田支部、観光協会、都立産業技術センター、都中小企業振興公社、知財センター、展示ホール、コンベンションホールなど)があり、城南地区の機械、金属関連のサポート機関として機能しています。目黒区でも電気、電子関連の支援施設として、目黒区産業プラザ(仮称)の新設を検討してみてもどうかと考えます。ワーキングスペースとして、テレワーク専用スタジオ群、オフィスなどの併設も考えられます。図書館機能をより充実し、映像ライブラリー・音楽ライブラリー、映像スタジオ・音楽スタジオ、編集スタジオ、MAスタジオ併設の新図書館の新設が考えられます。スタジオ群の設置にかんがみ、映像専門学校の運用、スタディエリア、専用カフェの設置が考えられます。目黒区中央の防災センターは、隣接の都道の開発が目前であり、区民センターに新防災センターもしくは防災ランチ機能の設置を検討してみてもどうかと考えます。緊急用ヘリポートの確保も必要ではないでしょうか。</p> <p>現在のプールの多目的利用として、訓練用あるいはトレーニング用プール(シュノーケル等訓練用プール)、また撮影用プールに利用できないかと考えます。宿泊棟、ウォーターパーク施設など検討の余地があると考えます。目黒川を活用した乗船場の確保も考えられます。隣接の新清掃工場からの常用及び非常用エネルギーを利用した給熱配給システム、電力配給設備、緑化スペースの新設などが考えられます。美術館の改築、新設にかんがみ、音大も近いことから、アトリエ、アートスペース、和室ミニギャラリーの確保、音楽ホールの設置など考えられます。また、郷土の歴史の風景をかさね、自然公園、博物館の新設などが考えられます。都内の区営施設において、科学教育への啓発から、科学館(宇宙館、プラネタリウム)も検討の余地があると思います。設計にあたっては、保安防災、福祉保健(バリアフリー等)に配慮した余裕を持った人的設計配置が求められるでしょう。</p> <p>以下まとめますと、</p> <p>①映像センター・放送スタジオ群の新設、研修宿泊センター、スタジオパーク、スタジオカフェ、ファッションエリア、リハーサル室、大道具・小道具エリア、映像制作歴史館、映画・映写施設、和室の併設、駐車場スペースの確保</p> <p>②目黒区産業プラザ(仮称)の新設、テレワーク専用スタジオ群、オフィスの併設</p> <p>③映像ライブラリー、音楽ライブラリー、スタジオ群など併設の新図書館の設置</p> <p>④目黒区新防災センター、宿泊棟の新設、緊急用ヘリポートの確保</p> <p>⑤プールの多目的利用。訓練用プール、トレーニング用プール、撮影用プールに転用可能な設計改築、ウォーターパーク施設、乗船場の確保</p>	<p>新たな区民センターは、限りある敷地の中で、新たな社会を見据えながら多用途に利用できる空間づくりを進めていきます。多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	⑥隣接新清掃工場のエネルギーを利用した給熱配給システム、電力配給設備、緑化スペースの新設 ⑦目黒区美術館、アートスペース等の確保、音楽ホールの併設 ⑧郷土自然公園、博物館の併設、科学館(宇宙館、プラネタリウム)の併設 以上、新区民センターの新設にあたって、こんなものがあったらどうかと、所感・意見をのべてみました。	
36	公園(P51～について) 目黒区にはプレーパークがないので作って欲しい。 泥遊びや水遊び、木工や自由な遊びができる場が他区にはあるが目黒にはない。場だけでなくそれに関する職員(プレーリーダー)ももちろん配置して欲しい。また、プレーパーク内に乳幼児が休憩できるログハウスもあると尚良い。着替えやトイレの心配もなく昼寝をしてしまった時、天候が悪い時、兄弟児でも安心の場所になると思う。建物自体は木造、木質化して欲しい。外材や集成材ではなく、国産材(多摩産や姉妹都市の宮城近郊の木材)を使って、健康に良い木質化をお願いします。 プールやじゃぶじゃぶ池も作って欲しい。 区内や近くは夏になるとどこも満員(林試の森、駒沢公園の池、世田谷公園プールなど)もっと気軽に水遊びをさせたい。	新たな区民センターは、これまで以上に目黒川や公園に大きな役割が期待されます。目黒川や公園などを含め、乳幼児から高齢者まで、誰でも使いやすく居心地の良い空間づくりを目指していきます。
37	1.この計画について ・直接関係する近隣地域の住民含め、区民に十分に知らされていない。 ・早い段階で広く区民の意見を聞く場を設けてほしい。 ・更地にして新しいものを建てればよいのではない。現在の施設の有効活用を。 ・目黒川沿いの樹木を生かし、環境を守る。タワービルには反対。 2.ホールについて ・客席:400~500席。中規模のホールが必要。一部可動式椅子。車椅子席の設置。 ・舞台面:現在の3倍程度の広さに。高さも必要。幅広いジャンルの公演に対応できる。 ・楽屋:舞台と同一平面(階段で上下しない)に。バリアフリー。備品収納場所の充実。 ・搬入口:舞台面と同じ高さ、搬入車が横付けできるように。 ・防音設備:区内に太鼓を演奏できる場所が少なく、太鼓演奏可能な設備を。 ・音響、照明:あくまで劇場として(体育館として利用しない)十分な整備を。体育館併用ホールは音響が不十分で劇団等に不評で利用が少ない。 ・トイレ:女性用を増やす。すべて洋式に。多目的トイレの設置。 ・バリアフリー:エレベーター設置。館内、ロビー、正面、楽屋口ともバリアフリーに。 3.美術館について ・現在の美術館の存続を。区立美術館のある区は少なく、コレクションも貴重。目黒区の文化度を示すもの。区民が気軽に美術に触れる場。 ・その上で、バリアフリー化、魅力あるカフェの設置等、より開かれた美術館に。 ・防災設備:所蔵品を浸水等から守る設備を充実させる。 ◎ホールと美術館の運営:(公財)目黒区芸術文化振興財団が一括所管するのが望ましい。パーシモンホールを20年間運営して来たノウハウを生かす。ホールと美術館の連携イベント等が多く開催ができる。	基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。 美術館については、作品展示のほか、ワークショップやアウトリーチ、区民の創作活動の発表の場としての区民ギャラリーが多くの方々から親しまれてきており、また新たな区民センターの未来像(コンセプト)実現においても、創作し、発表でき、区民がより身近に芸術文化に触れる空間は必要だと認識しています。 整備手法については、既存の躯体を維持しながら改善できる内容及びその後のコスト、耐用年数等を踏まえながら、建物の維持だけではなく将来にわたる区民の使い勝手等も総合的に考慮すると、建替えが最適だと考えています。 多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。

No	意見	今後の検討の方向
	<p>4.社会教育館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の社教館は老朽化が進んで利用しづらい。高齢者にも利用しやすいような館に。 ・感染症予防の観点からも、小さい研修室を多く作るより、多目的に使える大部屋を。 ・広いロッカールーム、安全な給湯室、多目的トイレの設置。全館バリアフリー化。 <p>5.図書館、児童館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の図書館、児童館に多くの区民、特に子どもたちが集っている。 ・広場も含め、子どもたちの居場所を確保する。全面的に建て替える必要はない。 <p>6.プールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外と屋内(通年利用)に設置。屋外には子ども用も残す。飛び込み用は不要。 ・屋内はプールを含めた「ジム」に。現在の中小企業センターのジムを充実させる。 <p>7.平和祈念関連書籍、公園内にある梵鐘(目黒名誉区民/人間国宝:香取正彦氏作)、 広島被爆二世のアオギリ、被爆の石、長崎被爆二世の柿の木を後世に残し、目黒区の平和学習の拠点として、現在の自然を生かした区民が憩える広場を作る。</p> <p>◎ホール、美術館、社教館、図書館、児童館、プールを含めた一帯が、区民のために区民が集い、区民が学び合うことのできる場所、第3のステージになるような計画を。</p>	
38	<p>・目黒区には他区から羨ましがられる「目黒子ども条例」があるにも関わらず、子ども条例を活かした施設がないと思う。川崎市子ども夢パークははっきり「川崎市子どもの権利に関する条例」をもとに作られたと謳われています。区民センターの内こそ子ども条例を反映させた施設と言えるようにして欲しい。(子どもの城のような)子どもの意見もしっかりと聞き反映させて欲しい。子どもにとっての遊びは生きていくために必要な身体的精神的社会的能力を身につけるために不可欠なものである。という遊びの価値が大人がしっかりと考え地域全体で子どもの遊びの保障をしなくてはいけないと思う。子どもが安心して過ごせる居場所、中高生も過ごせる居場所、主体的に活動出来る場、禁止事項なく、やりたい事を思いきり行える場、自分の責任で自由に遊べる場、「目黒区子ども条例」を反映させた空間、施設と言える場所として欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林大国日本として農林水産省、林野庁、東京都でも推進している「公共施設への国産材(多摩産材)利用をするべきだ」と思う。(友好都市のある宮城県産など)特に、図書館は無垢産を使用する事で本を守る事にもなり、リラックス効果も高まる。国産無垢材利用は木質化の中で最も必要な事だと思う。東京おもちゃ美術館も参考になると思う。(木育ひろばはぜひ使ってほしい) ・公園に関しては、一部でもよいのでプレーパークやユニバーサルデザインインクルーシブな場所が必要だと思う。目黒区に無い事が区民として恥ずかしい。 	<p>基本構想策定に向け、小学生から高校生のアイデア募集、また児童館を利用する保護者も含めて多くの方にアンケートにご回答いただくなどの住民参加に取り組んできました。</p> <p>施設だけではなく公園の空間づくりも含め、いただいたご意見やアイデアを参考にしながら検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
39	<p>(1)跡地をどのような未来像を持つかが大切だと思います。目黒区民には、様々な文化や芸術に関わったり、趣味として多くおられる自治体の一つだと思いますので、このような知恵と情熱を大切に、育て合う術にしていくことが大切だと思います。このため、それぞれのコーナーごとに名称を付けて、この街にしかできないことを広げていければ、いいのではないかと思います。</p> <p>①文化の街(ホール) ア、文化の施設には、区民の方々は舞踏・バレエ・和洋楽器の演奏・合唱など様々な趣味で生活に潤いを生み出すために、活動しているサークルがあります。この人たちが、発表の場・交流し合う場(ホール)が必要ですので、大ホールは1箇所300～400名規模、中ホールは、2箇所とも100名規模を設置し、区民が利用できる使用料を設定すればいいと考えます。合奏や合唱をされる方は、区内に練習する施設(ピアノのある)が少ないので、これに対応する小ホール2箇所とも50名規模が必要だと思います。(例)多くの区民や様々なサークルは、パーシモンホールの利用料を払うことができません。</p> <p>②本に馴染む街(図書館) ア、子どもへの読み聞かせコーナーを常設し、幼児期・低学年・高学年のコースに分けて行える室を備えている図書館を設置し運営する。読み聞かせをするボランティアは、中高校生や大学生を中心に公募します。この頃、兄弟の少ない家庭が多くなっていることを考え、育み合うことの大切さを吸収し合うことになると思います。 イ、今こそ、新型コロナウイルスの感染や核兵器廃絶の動きや戦争体験者が少なくなる状況を考え、平和を語りつなぐコーナーを設置し、語り部を公募して運営していければいいのではないかと思います。</p> <p>③芸術や歴史を堪能する街(美術館・博物館) ア、芸術の施設(美術館)には、施設独自の定期的な展示の開催や区民のサークル等が展示し合うなどで運営し、サークル相互の交流や区民が活動の場としての役割を担えるようにすればいいと思います。 イ、博物館には、目黒区の歴史資料を一箇所に集約して歴史が堪能できるように展示すればいいと思います。</p> <p>(2)下目黒小学校・プールやテニス場などは、利用者の意見要望を充分聞いて計画作りから進めてほしいと思います。</p> <p>(3)全施設は、今後の財政負担を考え、建て替えた方が財政の効果的な面でもいいのではないかと思います。</p> <p>(4)P32(ウ)将来にわたる財政負担軽減に向けて・・・「他の自治体では、公有地の財産的な価値を有効に活かし、民間活力の活用～行政の財政負担の割合を低減化する手法も多く見られています。」のことを、目黒区でも行うことを考えておられるのですか。「民間活力の活用」の内容を具体的に示してください。</p> <p>(5)この意見を聞かれた後は、住民の財産にかかわることですから、住民の参加や参画を充分保障し、住民への説明会を開催されることを望みます。</p>	<p>新たな区民センターでは、学びや文化芸術など、多様な機能を融合的に感じる事の出来る空間づくりを進めていきます。</p> <p>民間活力の活用は、民間資本活用のほか、設計や建設、維持管理や施設運営など多岐にわたります。いずれの段階で活用した場合でも、活用方策に応じて区の責任を明確にし、民間活力を活用する本来の目的である区民サービスの向上や効率的な維持管理に向けた検討を進めていきます。</p> <p>基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
40	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子を見ても具体的な内容がわからない。プールや図書館をどのようにするのか。 ・南海トラフ地震など災害時の対策は考えているのか。建物1階に主要な施設は入れられないだろう。 ・冊子のイメージ写真は、広いところに机が少ししかないが、現状も施設が足りていない。予約を取るのも大変だ。もっと小さな部屋を増やしてほしい。パーテーションで仕切るのは音が漏れて意味がない。 ・男女平等・共同参画センターなども移設したら余計狭くなる。 ・下目黒小学校の校庭も狭いのに、一体的に検討するのはおかしい。 ・社会教育館の職員が、区民センターについて知らなすぎる。勉強していないのか。もっと区職員全体で意識していくべきだ。(所管部署にも意見を言う。) ・これだけの大きなプロジェクトをどのような組織で運営しているのか。多大な税金を使うのに、担当部署の職員数が少なすぎる。 ・区民が意見を言える場、直接会って話す機会を設けてほしい。 	<p>本事業は、検討を専門的に進めるために平成30年度に担当部署を設置し、あわせて関係部署により構成する専門組織を設け、全庁的に検討を進めています。</p> <p>基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p> <p>多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
41	<ul style="list-style-type: none"> ・総論 区民センターの周辺は狭隘道路が多く、区民センターへのアクセスも必ずしも良いとは言えない。また、火災発生時や都市型自然災害の発生時に緊急車輛の通行が困難なため、地域防災に不安を抱く地域住民も多い。新たな区民センター整備に関しては、単に区有地のみにとどまらず、時間を要するかもしれないが、地域住民とも協議しながら周辺地域を含めた都市づくり(例えば、市街地再開発事業等の手法も念頭におく)の視点での検討を要望する。 ・総論 「新たな目黒区民センターの基本構想」(素案)の策定にあたり、今後、地域住民、区民利用者等からの意見聴取(ワークショップ等)を実施するとある。こうした地域の声に耳を傾けることとともに、目黒区の持続可能な行財政運営、未来像を念頭におきながら、建築・街づくり・不動産・金融・経営など、それぞれの分野の専門家の意見を聴取し、素案に反映させること。 ・総論 区民センターの見直しは、区有施設見直しのリーディングプロジェクトと位置づけられている。この成功の可否が、今後の区有施設の見直しの試金石となる。今ある既存の施設・事業にとらわれず、柔軟な発想で、目黒区および区民にとって、新しいシンボルとなるよう、新たな価値を生み出すような整備構想となるよう検討すること。 ・財政面 今後、少子超高齢化・人口減少と社会が転換期を迎えている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により今後、長期的に厳しい財政状況が続くと考えられる。新たな区民センター整備については、財政負担が大きな課題であるので、整備費・運営経費の負担がかからない手法を先進自治体の事例を参考に検討すること。また、民間企業の創意を取り入れ、継続的に財源が確保できるような新たな事業の創出などもあわせて検討すること。 ・防災 首都直下地震や激甚化する風水害に備え、防災拠点としての機能を持たせること。例えば、災害用の蓄電設備・自家発電機の設置や支援物資を輸送するヘリ、ドクターヘリの離発着を可能とする緊急離着陸場を新たに整備する建築物に設置することを要望する。 ・防災 区民センター周辺は、低地でゲリラ豪雨により浸水被害が想定されているので、区民センター敷地内の地下に貯留管を設置すること。また、区民センター対岸の地域は、水害ハザードマップによると1～3mの浸水が想 	<p>本事業では、都市計画上の制約をどのように解決していくか、地域の周辺街づくり等と合わせ、総合的に検討を進めていきます。</p> <p>また、基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いするとともに、公共施設の学識経験者である区有施設整備アドバイザー2名の意見聴取も実施しています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p> <p>なお、民間活力の活用は、民間資本活用のほか、設計や建設、維持管理や施設運営など多岐にわたります。いずれの段階で活用した場合でも、民間活力を活用する本来の目的である区民サービスの向上や効率的な維持管理に向けた検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>定されている。風水害発生時に、対岸地域の区民が区民センターへ容易に避難できるよう対策(新たな橋を架橋するなど)を講じること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー <p>障がい者や高齢者の使い勝手を考慮し、当事者による動作確認や提案を受け入れるインクルーシブデザインによる街づくりの視点を導入し、誰もが安心して集える施設整備を実施すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の低減 <p>持続可能な社会を実現するため、太陽光発電や目黒川の水流を活用した小水力発電、BEMS(ビルエネルギーマネジメントシステム)など、省エネ・再生可能エネルギーシステムを導入して環境負荷の低減に努めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術・文化 <p>目黒区の特徴のひとつである「文化の薫り高いまち」を体現できる街づくりを要望する。この意味するところは、従来の文化ホール、美術館、図書館等と個々の施設を単に整備するというでない。新たに整備された区民センターに訪れた区民が、ここに来ると、「アートを感じる」、「音楽を楽しむ」、「自分たちも表現することができる」など、街そのものが文化・芸術を醸し出しているような整備となるよう要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設 <p>新たな区民センター整備においては、下目黒小学校の敷地を一体的な敷地として取り込み、効果的な整備に向けた検討を進めるとあるが、下目黒小学校の整備は、今後の学校施設の長寿命化の指標となるような取り組みを要望する。例えば、新たな区民センターの整備の中で、プールの共同化(プール授業の民営化)、図書館と学校図書室との共同利用などを検討すること。また、放課後や休日の教室の目的外使用の範囲拡大、将来の児童が減少を視野に入れた可変性を持たせるなど、を念頭に整備を実施すること。</p>	
42	<p>新たな目黒区民センターが、乳幼児から高齢者まで、全世代にわたって利用しやすい施設となるような空間・環境作りを望みます。</p> <p>子育て世代が活用しやすい区民センターを創設するという考えに立って、意見を述べます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児連れの親子が必要となる授乳室、調乳室スペースの確保 ・乳幼児のオムツ替えスペースの確保、キッズトイレの設置 ・子どもが自由に遊べるキッズスペースの整備 ・調理室の設置(こども食堂、みんなの食堂の開催、親子の料理教室等として活用) ・乳幼児プールの設置 ・自然環境を生かした、鳥、虫などの生き物や植物を身近に感じられるような公園の整備 ・乳幼児から児童まで、子どもたちがのびのびと遊べる多様な遊具の設置 	<p>新たな区民センターを、誰でも、いつでも使いやすい施設とするためには、授乳室やオムツ替えスペース、だれでもトイレなどは当然必要になるものと認識しています。今後も、多様な世代の意見を聴きながら、子どもから高齢者まで使いやすい空間づくりに向けた検討を進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
43	<p>1、コロナ禍の下で、「新しい生活様式」が提起されています。今後整備する施設においては、区民の健康や命を守るために、ソーシャルディスタンスなどを考慮しなければなりません。こうした新たな状況の下での区としての施設の在り方を示すこと。</p> <p>2、中間のまとめには、『「未来につながる 人とつながる 新たな自分とつながる」“できる”が広がる創造空間』と抽象的なスローガンを掲げ、他の自治体の施設を例示しています。一方、区民センター内にある体育館、学童保育クラブ、美術館、図書館、社会教育館など、それぞれ法令や条例に基づいた、目的を持った各施設の総括が示されていません。各施設を利用している区民や団体、さらに幅広い区民の意見や要望を聞くこと。</p> <p>3、中間のまとめでは、区の財政負担の軽減などを理由に、建設及び運営において民間活力を高い割合で活用する案が示されています。民間活力や民間資金の導入をすべて否定するものではありませんが、区有施設は区民の生活を支える区民財産です。民間企業に丸投げすることなく、計画・設計・建築・運営などすべての面で区がきちんと関与し責任を負うこと。また、区と民間の契約については区民に対しきっちりと情報公開すること。</p> <p>4、下目黒小学校の敷地を含めて区民センターを建て替える方向が示されました。他の自治体では、学校をビルの中に集約し、屋上に校庭を設けているところがありますが、子どもの学ぶ環境がきちんと保障されているのか問題があるとの声がだされています。また、学校は地域避難所としての重要な役割があり、校庭のない学校整備はどうなのかといった声もあります。下目黒小学校との一体的な建て替えについて、子どもの発達との関係でどうなのか、教育上の区の基本的な見解を示すこと。</p> <p>5、区は区内の住環境や景観を守ることを目的に絶対高さ制限の仕組みをつくりました。この制度はしっかりと守るべきです。もし、区民センターを建て替え、高層ビルを建設するとなると、豪雨時に高層ビルの壁を直撃する雨水が建物の下にたまり、水害を引き起こすリスクが指摘されています。ただでさえ、水害のリスクが極めて高い目黒川沿いに高層ビルを建設することは、余計に水害のリスクを高めてしまうこととなります。区民センターは高層の建物ではなく絶対高さの制限内の建物の高さにすること。</p> <p>6、緑の確保と災害時に避難できるスペースを確保する観点から、現状の区民センター公園の敷地を確保すること。また、公園内にある平和の鐘や被爆二世の柿の木など、区の平和事業とかかわりのある遺産をきちんと確保すること。</p> <p>7、中目黒スクエアや下目黒住区センターの中にある男女平等・共同参画センター、青少年プラザ、住区会議室などを区民センター建て替えの際に集約するとしています。中目黒スクエア、下目黒住区センターは引き続き、区有施設ないし区の敷地として活用すること。</p> <p>8、区民センター図書館をさらに充実させ区立図書館として存続させること。</p> <p>9、区立美術館は、区立施設として存続させること。</p> <p>10、区民センターの建て替えとともに、不足している公営住宅を整備すること。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による影響については、区民センターにおいても十分留意していく必要があると認識しており、基本的な考え方にもまとめましたように、新たな社会を見据え、変化に対応できる空間の実現に向けた検討を進めていきます。</p> <p>なお、基本構想(素案)の作成に向け、より多くの方々の意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、多くの方々への周知も含め、住民参加に注力してまいります。</p> <p>いずれにしましても、設置から45年が経過している区民センターの見直しは、区民の方々の利用方法など現状を踏まえた検討を進め、かつ今後の区の健全な財政運営に資する視点も持ちながら進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
44	<p>1. コロナ後の公共施設のあり方は、ソーシャルディスタンスのとり方を含め区民のいのちを守る上で必要な、ゆとりのある施設設計に向けた重大な変更を求めている。区民センターの建替えをこの検討抜きに拙速に行うべきではない。住民参加で十分な検討を行い、『基本構想』策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)を抜本的に見直すことを求める。</p> <p>2. さらに、「区有施設見直し方針」そのものを、コロナ後の公共施設のあり方を見据えて、抜本的に見直すべきである。なお、社会経済状況の変化に応じて原則として5年ごとに「計画」を改定する区の方針だが、すでに「方針」策定から6年間経過している。</p> <p>3. 下目黒小学校の改築については、現在地において改築すべきである。その際、下目黒住区センターなどの複合化を検討することを否定はしないが、コロナ対応に向けた少人数学級を前提とした教室設計にすべきである。このことは、全国知事会や市町村長会の要望や国会質疑に対する首相や文科大臣の答弁で、少人数学級への具体的な検討が開始されているところである。将来を見据えた学校施設更新計画を策定すべきであり、当然、下目黒小学校を区民センターの基本構想とは切り離して考えるべきである。なお、『新たな目黒区民センターの基本構想』策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)において、下目黒小学校を一体整備する考え方を打ち出すのを待って、学校施設更新計画案を公表したのであれば、これもまた問題である。</p> <p>4. 図書館については、住民の「知る権利」補償は非常事態の時ほど重要であり、入館を禁止した下での図書館機能発揮のあり方を含め、コロナ後の図書館のあり方の検討を先行させる必要がある。図書館の管理体制とも一体に検討する必要がある。</p> <p>5. 美術館は老朽化していない。新耐震基準を備えており耐震も問題ない。よって、合築計画から除外し、いまのまま活用すべきである。</p> <p>6. 絶対高さ規制は、将来に向けた目黒区の街づくりの基本である。この基本に立つべきであり、区有施設における建て替え計画においては、敷地が1万㎡を超えていても40mまでの緩和規定を適用すべきではない。絶対高さ規制は20mを堅持すること。</p> <p>7. 児童館・学童保育については、その役割の発揮がコロナ問題を通じてますます重要となっている。「3密」をできるだけ避ける施設設計はどうすればよいか、真剣で専門的な検討こそ早急に先行すべきである。</p> <p>8. 中小企業センターのあり方、勤労福祉のあり方、消費者センターのあり方を、将来を見据えてどうしていくのか、設置目的をあいまいにする方向で区の方針を打ち出しているのは逆である。設置された目的の原点に戻って、関係者や専門家の声を踏まえて、強化する方向を打ち出すこと。</p> <p>9. 複合化すればするほど、数十年後の施設の更新計画において複合的な問題を抱え一層困難を極める。ジェンダー平等社会に向けて男女平等・共同参画センターは、本来なら総合庁舎内に設置すべきところであり、徒歩圏内にある現在地こそ利便性がある。青少年プラザについては、設置された目的の原点に戻って、関係者や専門家の声を踏まえて、強化する方向を明確に打ち出すこと。その上で、社会教育や児童館との連携強化を言うのであれば、区民センターにふさわしく、中央社会教育館、中央児童館のような位置づけのもとで、青少年プラザを位置づけるのならともかく、移設・複合化先にありきのやり方で進めてはならない。</p> <p>10. 以上のような検討は、設置目的を持つ各施設のすべての関係者を含めた、総合的な検討が不可欠であり、また、そのための情報開示も積極的に行うこと。なお、区民が情報開示請求したときに、応札4社の中から区がコンサル契約を結んだPwCアドバイザリー合同会社については、情報公開や住民参加に後ろ向きであり、この会社の意向に従って、区民への情報開示が極めて不十分になっている現状を改善すべきである。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による影響については、区民センターにおいても十分留意していく必要があると認識しており、基本的な考え方にもまとめましたように、新たな社会を見据え、変化に対応できる空間の実現に向けた検討を進めていきます。</p> <p>区有施設見直し計画にも記載していますが、計画は、基本計画の改定に合わせて縮減目標数値の見直しや、必要に応じた改定を行います。</p> <p>なお、基本構想(素案)の作成に向け、これまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p> <p>いずれにしましても、設置から45年が経過している区民センターの見直しは、区民の方々の利用方法など現状を踏まえた検討を進め、かつ今後の区の健全な財政運営に資する視点を持ちながら進めていきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
45	<p>詳しい「中間取りまとめ」は読んでおらず、概要版で知った内容への意見です。</p> <p>(1) 区民との直接的な意見交換もしていない現在の段階で、民間コンサルタント会社をすでに選定したと聞きますが、コンサルタント会社に、具体的にどのような仕事を任せるのですか？基本構想の策定は、当然、目黒区が行うのだと考えていましたが、そのどこにコンサルタント会社を位置づけるのでしょうか？(まとめの手伝いの役割ですか？)</p> <p>(2) 私は、基本構想の土台となるべき区民との意見交換は、目黒区に責任をもってやってほしいと思います。民間のコンサルタントに区民の意見をまとめさせるわけではないですよ？大事な目黒区の土地を使ったこのような大規模な建て替えは、今後、二度とないでしょう。だからこそ、時間が少しかかっても、区民同士や区民と区との意見交換が不可欠だと考えます。</p> <p>(3) 第2章の「区民活動の変化」「社会潮流の変化への対応」について区民同士(専門家も入れても)が意見交換をし、意見をすり合わせることから始めてはどうですか。その下の「“できる”が広がる創造空間」は、いいところばかりが挙げられていますが、あれもこれも全部をやるのは無理なので絞ることになるでしょう。そこそ、区民の意見を集約し、具体的な大きな方向性をまとめていくべきです。</p> <p>(4) また、新たな区民センター構想の中に下目黒小学校を入れないでください。誰もが出入りできるオープンな複合施設の中に小学校まで取り込むのは間違いです。大人がみだりに入ってはいけない小学校は、別に独立させて建て直すべきです。小学校には校庭が必要だし、いざというときには、避難所になる空間です。</p> <p>(5) 「留意すべき視点」として3パターンが提示されていますが、私は、パターン②を支持します。構想も建設も運営も民間に丸投げするかのようなパターン①には反対です。目黒区はこれまでに「合理化」として区職員を大幅に減らし、民間への委託を進めてきましたが、図書館でも保育園でも、問題や課題が出ています。いずれも経費をいかに安くするかからであって、区民にとり使いやすくする—という視点が欠けています。行政がやるべきこと、民間ができることを綿密に検討せねばなりません。</p>	<p>区民センター見直しに係る検討の主体は目黒区です。コンサルタントは、平成30年度以降区で行う検討をより専門的で実効的なものとするため、区の検討作業や資料作成に係る支援などに活用しています。また、基本構想(素案)の作成に向け、ワークショップ等を通してこれまで以上により多くの世代の方々からの意見、アイデアを聴く取組を進めるとともに、施設関係所管を通じ、550以上の関係団体に資料を送付し、ご意見をお伺いしながら具体化を図っています。今後も、本事業のより多くの方々への周知も含め、住民参加に注力していきます。</p> <p>下目黒小学校の一体整備においては、地域の防災力強化も含め、小学校が地域コミュニティの活動の中心としたうえで、セキュリティーに十分に配慮した検討を基本として進めていきます。</p>
46	<p>子どもの頃から、区民センターのプールやボーリング場、広場などで多くの時間を過ごしました。それらの設備の恩恵を受けた我々は、次の世代のためにも、しっかりとしたものを残していきたいと思います。現在は、パーシモンホール付近に住んでいますが、巨額の負担があったとはいえ、その恩恵を子どもたちが文化事業などで享受しており(こどもが初めて行ったコンサートはパーシモンホールでした)、同様のものを遺していきたいと思います。</p> <p>そして、さまざまな区民のニーズをつかむ意味でも、民間活力の導入を視野に入れつつ、一体整備を図るといった方向性に賛同いたします。ここで、目黒区は公園面積が他区に比べて狭く、グラウンドの確保も難しい状況にあります(他に23区で(区外ではなく)区内に球技公式戦が開催可能な公有グラウンドを持っていないのは、目黒区他には、都心の千代田・港区程度かと思います)。区有地が少ないなかで、この好機を活かし下目黒小学校の校庭を兼用する形で、大規模な球技等の公式戦可能なグラウンド(105m×68mのサイズ)の整備の検討を希望いたします。都会で大きな公園のない小学生が伸び伸びと遊ぶことはもちろんのこと、区民の運動会や区の中高生、社会人が利用することで、スポーツの機会を確保することが可能となります。また、広いグラウンドは、災害等の有事の際にも拠点となり、一体開発された施設とこの広いグラウンドが、区民の拠り所となるものと思われます。このグラウンドは一体整備された施設と同様、「多用途に利用できる空間づくり」にも資すると思われます。</p> <p>日中は学校での利用、夕方・夜間は部活動や社会人の活動、そして休日も、部活動などに加えてその他の区民の幅広い利用が見込まれ、有事には災害対策等への拠点として活用されます。加えて、グラウンドという未利用地があることで、将来の見えないニーズへ対応することが可能となります(昨今では保育園の設置ニーズがあったかと思いますが、昨今の豪雨に対応するための下水道増設幹線のシールドトンネルの発着所なども</p>	<p>新たな区民センターにおいては、ご意見にもあるように多用途に使える空間づくりを進めていきます。あわせて、敷地の特性も踏まえて防災の視点にも留意していきます。</p> <p>多様な工夫方策に関するご意見については、調査・研究が必要な要素だと認識しており、検討に当たって参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>広い公有地が必要となります)。しっかりとしたものを作り次の世代のために整備しつつ、今後の展開に備える意味で、このような広いグラウンドの重要性をご理解いただき、検討に活かしていただきたく希望いたします。</p>	
47	<p>会の定例会で出された意見を羅列します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民センターはハザードエリアにあるので、水害対策に万全を期してほしい。 <p>地下には大切な資料を保管しない。施設の設備系統や駐車場も地下には設置しない意見に賛同する。災害時には近隣の避難場所にもなるようにまた密集を避けた空間が確保できるようなフロアを設けてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老若男女問わず、憩える自然環境を作る。 ・プランターに花を植えるのも景観的には美しいが、沢山の命が息づく、土のにおいのする10坪ほどの自然な庭と農場を作る。 ・雑草のおおいぬのふぐりが咲き春を知り、虫や鳥が飛び生物多様性を知る・・・四季の移ろいを感じることは、癒しと憩いになる。野草、樹木でなるべく人の手が加えられない庭園。目黒の鳥の四十雀が営巣できる環境。子どもたちの情操教育にもなる。 ・ミニサイズの日黒区の地産地消の拠点を作る。食育の一環として、位置付ける。 <p>農場を作り、田作りをして、収穫した野菜などはこども食堂や区民センターのレストランで使用する。エコライフめぐろ推進協会とも運営を共催していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の社会活動・生涯教育の拠点づくりの充実 ・緑豊かな自然環境を生かした憩いの広場 農園・野鳥の来る公園 ・区民センターは、ホール、体育館、図書館、そして社会教育館は社会教育活動の拠点として、また消費生活センターが消費生活活動の拠点となるなど、各々の文化的活動を、区と区民とが協働して担ってきた歴史がある。 <p>中目黒駅周辺に見られるような、‘オシャレなエリア’に変貌するのではなく、目黒が培ってきた文化を大切に継承できる場にしたい。渋谷・大崎・目黒駅周辺に見られるようなゼネコンが作ったようなエリアにはしたくない。しかし、「新たな…未来像(コンセプト)」に示されている言葉は、あまりにもファジーで、求められる機能が整理されているとも思えない。もう少し、具体的な言葉にしてほしい。</p> <p>また、留意すべき視点でパターンを3つにして、パターン①はコンセプト実現可能性が高いとし民間活力も最大限活用としているが、‘最大限活用’とはどこまで？…。‘民間活力’の定義や関係性も定かでない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(概要版)国・都をめぐる社会潮流のうち、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技会……、リニア中央新幹線開通による……」は削除した方がよい ・地域特性の分析では、目黒川に沿って観光資源として活用できる要素ありとしているが、低地であることや目黒川の水位が上がったとき(氾濫含め)の危険性も計画の視点に入れるべき。 ・目黒の中に残された貴重な広域地であるので、大規模避難施設と組み合わせた施設を計画できないだろうか。災害については、想定外といわれるような災害が起きてくると思われる。 ・2019年のラグビーワールドカップの決勝戦が開催された新横浜公園にある日産スタジアムの近くを流れる鶴見川流域は、古来洪水被害が多く発生する地域で、決勝戦が行われる前日も台風の大雨で洪水になりました。皆、明日は中止かとハラハラさせられましたが、当日、決勝戦が行われたのです。 <p>新横浜公園は治水対策が大きな課題となっていました。そこで多目的遊水地という河川が氾濫した際に一時的に河川の水を引き込み、洪水の一部を溜めることで、流域への洪水被害を低減させる機能を持っているので、新横浜公園内にある日産スタジアムは、洪水時にはスタジアムの下に水を流しこみ新横浜公園自体が、洪水から街を守るための安全・安心装置となっているのです。それで決勝戦が開催されたのです。</p> <p>温暖化、気候変動等、今までとは予想外の天候が続くと思われます。是非とも目黒川の近くのこの場所にも、こういう装置を作って頂きたい。</p>	<p>民間活力の活用は、民間資本活用のほか、設計や建設、維持管理や施設運営など多岐にわたります。いずれの段階で活用した場合でも、活用方策に応じて区の責任を明確にし、民間活力を活用する本来の目的である区民サービスの向上や効率的な維持管理に向けた検討を進めていきます。</p> <p>区民センターの敷地は、目黒川沿いという恵まれた立地である一方、水害ハザードマップでは水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p> <p>その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
48	<p>1. 新たな区民センター整備に向けた考え方(p. 30以降)に関して</p> <p>①平成29年6月の「区有施設見直し計画」の取りまとめ以降の変化のうち、より顕著になっている風水害や地震災害における避難所の機能充実についての要請、並びに本年1月以降の新型コロナウイルスによる新たな感染症対策への対応策が抜け落ちており、「中間まとめ」以降の検討に取り入れる必要があると思います。</p> <p>②歴史と伝統のある下目黒小学校の改築整備を含めるのであれば、学校教育法に基づく施設の維持が欠かせない。「ビルの中に収容」された学校施設ではなく、校庭やプール、体育館などを考えると現在地での改築を望みます。また、学校は地域の避難所でもあり、地震や風水害対策、コロナ対策から要請されるその役割・機能についても検討すべきです。</p> <p>2. 「新たな区民センターに導入する機能について」に関して(P. 36以降)</p> <p>①「縮充」について、現在の区民センターにある会議室等の貸し室は集約化、融合化の対象として理解できませんが、区民センター以外の施設を対象にする行き過ぎた集約化はかえって区民サービスの低下を招くなど、弊害の方が大きいと思います。「縮減化」と「区民サービスの充実」は功罪両面があり、慎重に検討すべきです。融合化、縮減化により区民サービスが充実するかのよう描き方は誤解を招き、区民サービスの低下を招く可能性を見えなくしています。</p> <p>②「青少年プラザ」は、青少年健全育成に関する全区的な施設として位置づけ整備されたものであり、そのためレク室・レクホール、防音つき音楽室、美術室、交流コーナー、宿泊可能な施設として和室、ベッドつき洋室、調理室、シャワールーム等を備えている。</p> <p>これらの施設は、隣接する中目黒公園が防災倉庫を持つ防災公園として整備され、広域避難場所にもなっていることから、区有施設として保持し、避難施設の一つとしての活用が期待できるものである。公園に隣接する東京共済病院とも連携し、介護を必要とする障がい者や高齢者など社会的弱者の避難場所として位置づけられる可能性があり、集約対象から外してほしい。</p> <p>③「民間活力を積極的かつ多様に活用」(p. 11ほか)について、「施設整備及びその後の運営を効率的・効果的に進めていく」とのことですが、利用者の利便性、運用面におけるきめ細かいサービス提供、利用料金の設定などについて区の主体性は貫けるのか疑問です。結局のところ、民間への区民サービス丸投げでは、行政サービス低下によって利用者にしわ寄せされる例が多いのではないかと。</p> <p>3. 「新たな区民センターの未来像(コンセプト)」に関して(p. 14以降ほか)</p> <p>①「5つの類型」の活動空間イメージが示されているが、「未来とつながる、人とつながる、新たな自分とつながる」ためには、それらがどのように実現されるのかイメージが伴っていない。ここで示された絵を実現するためには、それぞれの分野に精通した専門家の役割が重要である。器(施設)を作れば自然にできるものでもなく、利用者に委ねても解決しない。運営を民間に委ねて利用者任せでは単なる「画餅」に陥るのではないかと。区として主体性を持ち、専門人材の育成・活用も併せて積極的に行うべきである。</p> <p>4. 施設整備方法のパターンについて(p. 20ほか)</p> <p>①区民センターの敷地は、「中目黒駅と目黒駅の間地点」に位置しているというが、電車でのアクセスはあまり良いとはいえない(特に中目黒駅から)。また、道路事情も目黒通り、山手通りという幹線道路が近くにあるが、「サウンディング調査」(p. 44)でも「幹線道路からの視認性が悪く、周辺・接道道路の幅員が狭いため、商業施設としてのポテンシャルは低い」と指摘されている。目黒駅周辺の高層ビル再開発に惑わされることなく、身の丈に合わせた目黒区らしい開発を考えるべきで、その点ではパターン①ではなく、パターン②でも良いと思う。</p> <p>5. 質問事項</p> <p>① 周辺施設機能の集約化に関して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「下目黒住区センター内会議室等」には、会議室以外の施設(老人いこいの家等)も含まれるのか？ 	<p>新型コロナウイルス感染症による影響については、区民センターにおいても十分留意していく必要があると認識しており、基本的な考え方にもまとめましたように、新たな社会を見据え、変化に対応できる空間の実現に向けた検討を進めていきます。</p> <p>区民センターの見直しは、区有施設見直しのリーディングプロジェクトです。今ある区有施設全体を更新できない状況を踏まえると、施設の複合化、集約化は、施設見直しを進める中で区民サービスをなるべく低下させない手段として不可欠です。区民センターでは、集約化や多機能化を図りながら、施設サービス向上を実現させる取組として、縮充を図ります。</p> <p>民間活力を活用した場合でも、活用方策に応じて区の責任を明確に、区の主体性を保ちながらも民間の有する運営等のノウハウを活かすことで、本来の目的である区民サービスの向上に向けた検討を進めていきます。</p> <p>なお、中目黒スクエアの住区会議室や児童館、学童保育クラブについては、現時点では集約等の対象としていないため記載していません。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>・中目黒スクエアの男女平等・共同参画センター及び青少年プラザについては集約化の対象にしているが、他の住区内会議室、児童館、学童保育クラブについては言及がない。別途、区民センター以外の施設との集約方法を考えているのか？</p> <p>・これらの施設は、将来的にどこかの施設に統合・集約され、跡地は売却をを考えているのか？</p>	
49	<p>目黒区民センターに係るこれまでの動きを箇条書きにすると以下のようになる。</p> <p>(1) 2017年(平成29年)6月、「目黒区有施設見直し計画(平成29年度～平成38年度)」策定。</p> <p>(2) 2019年(平成31年)3月、「目黒区民センターの課題整理」取りまとめ・公表。(以下、「課題整理」と略称。)</p> <p>(3) 2019年(令和元年)9月、「『目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方』の策定に向けた検討素材」公表、意見募集。(以下、「検討素材」と略称。)</p> <p>(4) 2020年(令和2年)6月、「『新たな目黒区民センターの基本構想』策定に向けた基本的な考え方(中間のまとめ)」作成・公表、7月31日まで意見募集。(以下、「中間のまとめ」と略称。)</p> <p>まず(2)の「課題整理」についてみると、最も評価できる点はそのP.1「はじめに」に記載した7項目の検討の方向性である。すなわち、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 区の施策推進のために必要な施設機能の精査 ② 複合施設としての目黒区民センターのあり方 ③ 改修等の手法(民間活力の活用等) ④ 都市計画上の制約 ⑤ 目黒駅周辺地区街づくりとの関係 ⑥ 周辺施設との複合化 ⑦ 既存建物の耐震面での対応 <p>である。</p> <p>この7項目は工学的にも法制度上も合理的な内容であり、表現も簡潔明瞭であり、これに厳密に基づいてこれ以降の行政と区民による検討・計画が進められることが望ましかった。</p> <p>しかし、これ以降の検討・計画はそのようには進まなかった。今回は時間が足りず、詳しく述べることができないが、この点についてはいずれこの意見書の補論を提出したいとも思うし、ワークショップのような機会があれば、話題として提出したいとも思うものである。</p> <p>具体的な話を何もしないのも誠意のないことなので、一二点のみ指摘をしておく。</p> <p>一つは、目黒川に直接、接続する立地・建築物等を扱うにあたって、「目黒川流域河川整備計画」2018年(平成30年)4月、東京都)乃至それ以降の資料を縦覧精査し、また東京都の当該河川担当者と十分な協議をおこなっているのかということである。何しろ、区民センターが老朽化しているとすれば、それを支える目黒川護岸も老朽化していると考えるのが当然であって、上物の区民センターを更新してから、下物の目黒川護岸を更新するというのは困難なことである。</p> <p>今一つ、(2)の「課題整理」のP.59には「パターン② 区民センターと一体的に小学校を整備」の記載がある。この記載は(3)の「検討素材」、(4)の「中間のまとめ」にも引き継がれ、その記述も強調されてくるのであるが、区民センターと一体的に下目黒小学校を整備すべき決定的かつ具体的な理由は見いだされない。例えば田道小学校と一体的に整備するとしても、同じことがいえるであろう。したがって、何か語られていない、理由があるのであろう。案ずるにそれは、区民センターと下目黒小学校を一体化することによって、目黒通りと連絡する</p>	<p>河川沿いに建築物を整備する際には、河川管理者との協議が必要になります。ただし、それは建築計画の具体化を図る中で確認していくことになります。</p> <p>下目黒小学校の一体整備により得られる効果としては、小学校が築55年を経過し、更新に係る検討が必要となる時期に入っていることをとらえ、一体的に整備することで教育活動のさらなる充実が期待できる点にあります。</p> <p>その他の多様な工夫方策に関するご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	意見	今後の検討の方向
	<p>進入道路を設置する可能性が出てくるということであろう。このことは大きな魅力であるが、小学校の校庭を分断する影響は計り知れず、現在の沿道に櫛比する住宅等の賛同を得られる見通しも記述されていない。</p> <p>次に(3)の「検討素材」についてみると、最も評価できる点はそのP.3「取組全体の流れ」に記載された目黒区民センター見直しのロードマップである。(2)「課題整理」にはこれが欠けていた。そして、(4)「中間のまとめ」はこのロードマップには予定されていなかったこともわかる。その他の検討・計画については、(2)「課題整理」よりも分析が進んでいるとはいえ、若干の材料の追加はあるが、(3)「検討素材」自体への当会の意見において論じたので、再論はしない。</p> <p>この意見書の直接の対象である(4)「中間のまとめ」についてであるが、言うまでもなく(3)「検討素材」に対する大量の意見の処理とおりからの新型コロナウイルス禍に追われながらの粘り強い作業であり、文章も次第にこなれてきたことを特筆する。</p> <p>「中間のまとめ」のP.2に新しい「(3)取組全体の流れ」が記載されているが、(3)「検討素材」に記載のものとはかなり異なっている。変更点をいちいち注記はしないが、内容的には留意すべきものである。新たに、「民間事業者のサウンディング調査」「地域住民、区民利用者等からの意見反映(ワークショップ等)」等の語が新たに加わっている。この間に加わる「基本構想策定に向けた基本的な考え方」については素案はつくられず、次の「新たな目黒区民センターの基本構想」について素案がつけられることになっている。</p> <p>素案とは言い換えると承認案原案ということなので、実質的な意見の反映は「基本構想策定に向けた基本的な考え方」の段階で、並行して行われる「民間事業者のサウンディング調査」「地域住民、区民利用者等からの意見反映(ワークショップ等)」等の機会を置いてない。ワークショップは最初に述べた7項目についておこなうべきであるが、分科会方式を採用して、話し合いの深化と能率化を図るべきであろう。</p> <p>最後に、本来は7項目の検討の方向性にそって希望という意味での意見を言うべきところであるが、少々先回りして、本会の希望的意見を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目黒区の図書館は全八館体制によって成り立っていて、その体制は目黒区立図書館基本方針に規定されている。この八館体制が要求する館内諸設備及び配本車スペースを確保すること ・館内の換気設備を確保すること ・新区民センターの建物設置位置は、できるだけ山手通り側とし、目黒川護岸から遠ざけること ・図書館と他の施設の複合化については、各施設の性格・機能を精査し、外見上の類似性などで判断せず、真に必然性のある組み合わせとすること <p>以上</p>	

No	意見	今後の検討の方向
50	<p>私たち運営委員会は、目黒区男女平等・共同参画センターの運営に区民の意見を反映するため、1993年に発足いたしました。</p> <p>運営委員会は一般区民利用者やセンター利用団体の代表者で構成され、講座や男女平等フォーラムの企画、情報誌「であいきらり」の編集等に参加しています。</p> <p>今回、「目黒区民センター見直しに係る基本的な考え方」の策定に向けた検討素材に対しまして、運営委員会として以下の通り意見を提出いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2章「新たな目黒区民センターの基本構想」策定に向けて2(3)新たな区民センターに導入する機能についてにおきまして、男女平等・共同参画センターを新たな区民センターへの集約機能とすることに賛成いたします。 <p>前回の新しい区民センター検討素材への意見でもお伝えいたしました通り、新たな区民センターに求められる機能とその空間イメージ ア・イ・ウは、「目黒区男女が平等に共同参画する社会づくり条例」で定めた、性別に関わらず、すべての人々の人権が尊重される豊かな地域社会を実現することをめざすという目的に即している機能だと考えております。</p> <p>イにあります、○世代や性別、国籍に関わらず、誰もが参加できる活動の場を設け、多様な価値観に触れる機会を生み出すこと《つどう、つながる》 ○多様な人々との交流を通じて、考え方の違いを理解すること《つながる、まなぶ》というコンセプトは、各施設やフロアごとに分断された機能ではなく、誰でもオープンな空間で、様々な価値観と触れることができる施設を実現する重要なポイントだと評価しております。</p> <p>男女平等・共同参画センターにつきましては、性別や年齢、国籍等に関わらず多くの方が多様な価値観に触れる機会を生み出すという目的を実現するため、また区民の多様性を尊重するという意識を醸成するため、新たな区民センターの中にその機能を有することを引き続き希望いたします。</p> <p>また、機能の集約化、新たな区民センターの空間づくりに関しまして、現在、各施設ごとに有している会議室・研修室、ラウンジ・食堂・学習スペース、資料室(男女平等共同参画センター)・図書室(図書館)・展示室(美術館・学校サポートセンター)、小学校プール・区民プール、体育館・多目的ホール・音楽ホール等の施設については、その機能及び空間を集約化することで、施設やスペースを効率的に活用すると同時に、様々な利用者(個人・団体)が交流、触れ合うことのできる空間になることを期待いたします。</p>	<p>新たな区民センターにおいては、これまでどおりに各施設毎に空間、運営を検討するのではなく、新たな区民センター全体として検討を進めていく必要があります。その上では、ご意見にもあるように、誰にでもオープンで、誰もが利用できる空間づくりが必要だと考えています。そうしたことを実現することで、様々な機能や人とのつながりが生まれ、多様な機能間が「つながる」空間となることが期待されます。</p>
51	<p>前回の「検討素材」に対する意見の中間まとめから・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民センターは建設から45年が経過しており、ハード面、ソフト面など多くの課題を抱えている現状から、それぞれ総合的に判断して、建替えが望ましい。 ・しかし、第一の課題として、災害対策が脆弱なこと。特に目黒川沿いであること。 <p>近くに調節池があるといっても油断はできない。大型台風による高潮、地震による津波など。よってこの周辺での建設は避けていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他にふさわしい場所がないとのことであればやむを得ないと思うが、今後の温暖化や都市化や、異常気象による集中豪雨への備えを万全にしなければならない。 ・この周辺は障害者が利用しにくい。それには、まず、障害者を優先したコミュニティーバスを巡回させる。バス停から遠いことは、雨の日、風の強い日など、歩きにくいし災害時の避難など安心感が必要では。 ・下目黒小学校は、水に強い独立した建物で。美術館は現在のまま周りを整備して、緑と一体化したセンスある文化施設とする。 ・土と緑の公園は目黒川沿いのシンボルとして残したい。区民も参加できるクラウドファンディングなどを使って財源を確保して区民の息のかかった安らぎの場所を作って欲しい。 	<p>区民センターの敷地は、目黒川沿いという恵まれた立地である一方、水害ハザードマップでは水深0.1m～2.0mの深さで浸水するおそれがあるとされており、防災の観点に十分に配慮しながら検討を進めていく必要があると考えています。</p>